

わが子のあゆみ

岐阜県PTAが作る子育て情報機関誌

2017.9 NO.449

初秋号

第69巻2号

9

5年生親子会「心肺蘇生術講習」

安桜小学校PTAの活動に「学年別親子会」があります。各学年が、参観日に合わせて授業の一環として開催し、「親子がコミュニケーションをとりながら一緒に学ぶ」という趣旨で、子どもの発達段階と学習内容を考慮しながら実施しています。5年生は、地域の市民団体である「命をつなげる会中濃」の方々に講師にお招きし、緊急時の応急処置の方法を親子で体験します。これは、命を守るための知識と、自分で考えて行動する意識を親子で共有できる貴重な機会になっています。

せき し りつ あさくらしょうがっこう
関市立安桜小学校

●【学校の教育目標】

夢をもち 仲間とともに やりぬく子



がんばる子らの 汗と笑顔と眼差しと

関市立安桜小学校

1年生は、親子での「給食試食会」を5月に行い、保護者の学校に対する不安を少しでも減らそうと取り組んでいます。2年生は、「ミニ運動会」を行い、体を一緒に動かしながら、保護者同士も楽しくコミュニケーションを取ることができています。3年生は、親子で「凧作り」をして、実際にグラウンドで凧揚げをします。4年生は、「福祉体験」として目隠しをしておこなうガイド体験と点字体験します。6年生は、親子で「スマホ・ケータイ安全教室」を受け、家庭でのルールについて改めて話す良い機会になりました。



1年生親子会（給食試食会）



2年生親子会（ミニ運動会）



3年生親子会（凧作り）



4年生親子会（福祉体験）



6年生親子会（スマホ・ケータイ安全教室）

わが子のあゆみ

2017.9 No.449 初秋号
第69巻2号

発行：岐阜県PTA連合会
〒500-8824 岐阜市北八ツ寺町7 岐阜県校長会館内
編集：岐阜県PTA連合会広報委員会「わが子のあゆみ」編集部
頒価：200円 年間1,000円
この刊行物は一部岐阜県からの助成金を受けています。

バックナンバーのお求めは
058(262)3257
県PTA連合会事務局へ



羽島市立 小熊小学校

【はしましりつおぐましようがっこう】

●住所 〒501-6273 羽島市小熊町2丁目361番地5
●TEL (058)391-3059
●FAX (058)391-8973
●メール ogumae@hashima-gifu.ed.jp
●児童数 209名

学校の教育目標

美しい心と強い体で
よく考え、夢と目標を
実現する子

～かしこい子・あたたかい子・たくましい子

学校のたからもの



沿革・地域の自然や風土

小熊小学校は、清流長良川の東、羽島市の一番北、田園地帯の中に位置します。「小熊よいとこ」 小熊の里はヨー 美濃の羽島の宝倉 ヨイヤサ 米のなる木がサリと揺れりや 踊る若衆の 輪が伸びる」

これは、終戦を迎え村民は、生きる方向を失い、茫然自失状態、そんな中で生まれ、村民に元気を与えたといわれる「小熊音頭」の一節です。そうした歴史的背景を子どもたちは地域の方から聞き、小熊音頭の意味や力を実感します。そして、その上で踊り方を教えてもらい、地域の夏祭りや地域の方と共に踊ります。小熊町の文化、地域の方の温かさに直に触れ、地域の中で育て

校歌

小熊小学校校歌

作詞 加納一夫
作曲 小川恵誠

一 知風のかおり 阿蘇の宮
歴史の古き 学び舎に
すくすくのびる 小熊の子
若き力を きたえつつ
なかよく歩もう 腕くんで

二 はるかにそびゆる 伊吹山
七つの光 照り映えて
明るくのびる 小熊の子
誠の道を ひとすじに
常にみがこう 胸はつて

三 みなもと遠き 長良川
清き流れに 若鮎の
希望にもゆる 小熊の子
学びの道を たゆみなく
勉めはげもう のびのびと



▲挨拶戦隊「おぐーまん」登場



▲あいさつタッチをする子どもたち



黙々と、膝をついて▶ワイパー拭き

られていることを感じている本校の子どもたちです。

また、毎朝、安全サポーターの方々が見守ってくださる中、PTAから寄贈されたシエルメットをかぶって子どもたちは登校します。地域ぐるみで子どもたちを育てていただいている小熊小学校です。

学校のたからもの① 子どもたちの手でやりきる 「小熊小カレーまつり」

「小熊小夏まつり」は平成二年度から始まった本校の伝統的な行事です。「保護者や地域とつながり、学年を超えた仲間と親密になれるよい機会である。」と称賛する意見がある一方で「保護者の負担が大きい」「親が手を出しすぎ、親に頼ってしまう」という課題もありました。



▲地域の方から「小熊音頭」の歴史について話を聞く子どもたち



「ぐつぐついつてきたぞ。もう少しがな。」

そこで、PTAと学校とが協議を重ね、「子どもたちにとってより価値のある活動にすること」を大切にして考え、二十七年度から大きく形を変え、「小熊小カレーまつり」として行っています。

○子どもたちが自分たちで考え、自分たちで行動する。

たてわり班ごとに、かまど作り、飯盒炊飯、そして後始末まですべて子どもたちの手で行う。

○保護者は、「口を出さない、手を出さない」。

本部役員も飯盒炊爨をし、備蓄倉庫にある炊き出しセットを使ってレトルトカレーを温める。

カレーまつり当日の様子です。たてわり班のリーダーを中心に、ブロックを組んでかまど作りから始めました。かまどが完成し、火をつけるばかりになりました。ところが、「マッチがない。」と先生か

「しまった！お米、まだかしていないよ。」

「はよしてね。火が消えないように頑張るから。」

みんなで声をかけあい、みんなが動いて、無事、火に飯盒をかけることができました。

「やったあ。ぐつぐつしてきたよ。もう少しやね。」

「つわんであぶつていい？」

班の仲間と一緒に、夢中になり、心を響き合わせたカレーまつり。自分たちだけで考え、行動したカレーまつり。おこげもあつたけど、自分たちで作ったご飯だから、家で食べるご飯よりもおいしかったです。

大人の手を借りず、自分たちだけで火をおこし、「ご飯を炊き上げた子どもたちの満面の笑顔。自然に声をかけ合い、協力し合う子どもたちの姿。」「子どもってすごい。」と感じることができた瞬間でした。保護者からも、カレーまつりを通して会話がぐんぐん伸び、家族の絆を深めることができたという声をいただきました。

学校のたからもの② 小熊小、あっぱれ「二〇じまん」

小熊小学校の子どもたちには、二つの自慢があります。それは「あつたかあいさつ」と「ぴかもく本物掃除」です。児童会を中心に、この二つの自慢をより質の高いものにしようと取り組んでいます。

「あつたかあいさつ」

「目を見てあいさつするのが当たり前、

おぐーまんブルー！」

「いつも笑顔であいさつ おぐーまーんイエロー！」

「心を込めて届けます。プレゼンテーション」

「おぐーまんレッド！」

あいさつ戦隊 おぐーまんが、校内をまわり、全校児童に呼びかけます。子どもたちは、「目を見て、笑顔で、心を込めて」を合言葉に、挨拶の輪を広げていきました。地域の方にも、そして来校されたお客様にも、子どもたちから気持ちのよい挨拶ができるようになってきました。

また、「みなさんこんにちは。あつたかあいさつエピソードの時間です。今日は〇〇先生です。」と、キャンペーン期間中、教員があいさつにかかわる自分の経験や思いを話しました。「あいさつするっていいなあ。」と子どもたちの心に響くことを願って行いました。

「二もくぴか本物掃除」

掃除の時間は言もしやべらず、黙々と掃除をします。一人ひとりが床にひざをついて雑巾でワイパー拭き。この時間だけは、仲間とかかわりません。注意や呼びかけもしません。ふき残しがないように一人黙々と行っています。もちろん教師もです。年生の児童も、黙ってワイパー拭きができるようになりました。掃除が終わると「お疲れ様でした。」の声が校舎内に響き渡ります。一生懸命に頑張つてすっきりとした気持ちがこの言葉に込められています。



大垣市立 江東小学校

【おおがきしりつえひがししょうがっこう】

- 住所 〒503-0936 大垣市内原3丁目135番地
- TEL (0584) 89-3502
- FAX (0584) 89-3551
- メール ehigasi@ogaki-city.ed.jp
- 児童数 511名 (7月10日現在)

学校の教育目標

**めあてにむかって
進んでやりぬく子**
進んで学習する子
共に高め合う子
体をきたえる子

校訓 **体すくすく 心ひろびろ**

学校のたからもの



沿革・地域の自然や風土

本校は明治六年に寺子屋が三義校として開設し、明治四十年に江東尋常小学校となりました。昭和二十二年に安八郡学校組合立江東小学校と改称し、その後、洲本村、浅草村が大垣市に合併し、大垣市立江東小学校となりました。校区は大垣市の南端の低湿地帯に位置し、かつては学校の周りに多くの堀田が広がっていました。昭和三十年代前半から四十年代にかけ、大規模な土地改良事業が行われ、名神高速道路大垣インターチェンジや国道二五八号線をはじめ大小の道路網の整備により、住宅・店舗・工場の建設が相次ぎ、急速に市街地化が進行しています。

校歌

江東小学校校歌

作詞・作曲 江口夜詩

一 学びの窓から一望千里
美田は父母の築いた幸よ
明るく仲よく手をつなぎ
明日の郷土を守りましょう
江東 江東 よい学校

二 はるかに白雲 浮かんでなびく
けだかい姿 伊吹のみねよ
強くて正しくたくましく
心も豊かに学びましょう
江東 江東 よい学校



▼ハの字跳び



▲タイヤ跳び



▲ボールパスラリー

学校のたからもの①

「言葉のキャッチ＆スロー」
しっかりと聞いて はっきり話し
ともに高まる江東小

「言葉のキャッチ＆スロー」とは、「話す人の顔を見て聞く」「呼ばれたら『はい』と返事をする」「挨拶をする」「くだと思えます。どうですか」「分かりました」「もうすぐ掃除だから行こう」「いいよ」といったようなやりとりです。いずれも人とつながるための基礎・基本です。

江東小は、このように言葉を交わし、他者の存在を意識・尊重して「聞く・受けとめる」「自分の考えや思いを」話す。



▲じゅくりあたま

体力向上を目指して

本校は、大垣市教育委員会より、平成二十七・二十八・二十九年度にわたって体力向上研究開発事業の研究指定を受け、「運動の楽しさを味わい、仲間とともに高まり合う児童の育成を研究主題とし、子どもたちの体力向上を目指して取り組んでいます。特に「日常生活に於ける運動の充実を大切に考え、すくすくタイムでは「江東サーキット」「江東体操」「チャレンジ江東」に分かれて運動を続けています。

①江東サーキット

児童の実態から、休み時間の遊びの種類が少なく、遊具で遊ぶ機会が少な

ドッジボールなどのボール遊びを好む児童も多いですが、苦手な児童もあり、体力テストでは、個人差の大きい種目でもあります。そこで、すくすくタイムで取り入れることにより、ボールに触れる機会が増えるようにしました。

③江東体操

児童の実態として、握力が低いことがあります。それを向上させるために、岐阜経済大学の先生に、握力が付く動きを取り入れた体操を作っていただきました。大垣市文教協会総会で発表しました。

日常的に運動する機会を増やすことで体を動かす機会が増え、体力が向上し、運動に習熟することだけがをする児童の数が減りました。

学校のたからもの②

学校では、日常を大切にしていることと四つの取組みを意識しながら二年生から六年生までが学校生活を送っています。

＊いつでも誰でもさわやかな「あいさつ」生活委員会によるあいさつ運動 等
＊自分の仕事は、最後まで丁寧に行い、遂げる責任「もくもく」掃除係り活動 等
＊仲間を大切に、温かい言葉かけを心がける「思いやり」よいこと見つけ 等
＊美しい声が校内にこだまする「歌声」音楽集会・マイステージの学年発表 等
毎月、音楽集会が行われます。「マイ

▼大垣市文教協会総会での発表
江東体操



▲マイステージの歌声発表



▲ユニバーサルデザイン授業 共有化

校歌

大井小学校校歌

作詞 吉村比呂詩
作曲 松本民之助

一 笠置山高くそびえて
城ヶ丘花の木かおるよ
みどり萌える学び舎
しあわせがあふれる
我らあかき大井の子ども
手をたぎ歌を歌えば
すこやかに伸びるうれしさ
胸におどるよ

二 木曾川の清きながれに
船はしりしづきをあげるよ
紅葉におう恵那峡
うつくしくきらめく
我らあかき大井の子ども
空青く鳥ははばたき
波うちてゆれる稲穂に
夢がひかるよ



恵那市立 大井小学校

【えなしりつおおいしょうがっこう】

●住所 〒509-7201 恵那市大井町851番地1
●TEL 0573-25-5341
●FAX 0573-25-5342
●メール ooi-e@ena-gif.ed.jp
●児童数 294名

学校の教育目標

夢と希望をもち、
かしこく元気な子

お おもいやりのある子
お お互いに学び合う子
い いのちを大切に子

校訓
至誠遂行
校風
元気・規律

学校のたからもの



学校の沿革および地域の様子

本校は明治六年に至誠義校として開校し、明治七年に校名を大井小学校と改めて以来、地域の核となり四五年の年月を刻んできました。恵那は南に恵那山がそびえる自然豊かな地であるとともに、中山道大井宿として栄え、本校はその本陣近く、城跡の「城陵」と呼ばれる歴史ある地に位置しています。

現在の校舎は平成九年に建て直され、時計台を持つ、木の香りあふれた五角形の美しい校舎です。また、地域の生涯学習拠点の機能を併せ持つ校舎は、歴史ある大井の学校として「地域の学校」としての意識が高く、外部講師を積極的に招聘しながら地域との交流を進めています。

学校のたからもの① 地域の教育力と伝統芸能

大井小学校では全学年において、特に生活科・総合的な学習の時間・特別活動で地域指導者の方たちの協力を得て、特色のある教育活動を進めています。ご協力いただいている地域指導者の数は五十名以上になります。

今回はその中の一つである、六年「総合的な学習の時間」(以下 六年総合)で取り組んでいる伝統文化・芸能の学習活動について紹介します。



▲おおい芸能フェスタ
大井小太鼓の演奏

▼おおい芸能フェスタ
争の演奏



六年総合では「茶道」「大井文楽」「争」「大井小太鼓」の四つのコースに分かれ、一回二単位時間、年間十一回の取組を行っています。この取組は十年程になりますが、以前までは六年全員がすべてのコースを体験する内容でした。三年前、自分の興味関心のあるコースを二つ選択して、年間を通してじっくり学び、練習する取組になりました。このような取組方法にしてからは、個々が地域の伝統文化・芸能をより深く理解し、技能を高めることができるようになってきました。三年前より、毎年十一月に行われる「おおい芸能フェスタ」や学年末の参観日に保護者の前で成果発表をするなど、発表の場もできて子どもたちの意欲も年々高まっています。

これまで和太鼓以外のコースの指導者は大井地区の方たちに指導をお願いしてきましたが、和太鼓コースだけは上矢作町から来ていただいて、上矢作太鼓を学んでいました。昨年度、子どもたちの技能の高さを認めていただき、「大井小太鼓」襲名の許可を得ることができました。

この取組は、単に地域の伝統文化・芸能について学ぶだけでなく、後継者育成の側面ももっていると考えています。伝統文化・芸能の伝承については後継者育成に困っていることをよく耳にします。大井小で行っている伝統文化・芸能についても例外ではなく、高齢化が進んでいるのが現状です。大井小太鼓では、

年間を通して遠路来校することが難しくなり、コース存続を検討することになりました。そこで、既存の指導者の方たちが大井地区内の居住者に協力を呼びかけたところ十数名の参加協力を得て、本年度は子どもたちと一緒に「大井小太鼓」を学びながら次年度以降の指導につなげていく取組も始まりました。

書、集会活動における黙って移動・黙って話を聞くこと、黙って掃除、黙って整列する集団下校に取り組んできました。この四つの地道な取組により児童の「静けさ状況」をつくり出すことが根付き、落ち着いた感じのある学校づくりを支え、学習集団の質が向上してきました。

②ユニバーサルデザイン授業への挑戦

どの児童も「わかる・できる」の具現に向け、児童の意識調査とレディネステストを単元の前で行い、児童理解の具体的な数値化を行っています。このデータをもとに、指導支援の在り方、活躍の場の仕組みを吟味しています。これを受け、単位時間の授業では「焦点化」「視覚化」「共有化」の三点を大切にした授業づくりを進めています。その主な取組は次のとおりです。

焦点化…誰もが付けたい力や技の獲得のために、単位時間中盤で課題をより焦点化する「深めの発問」を準備しています。

視覚化…興味関心を引き出したり、思考を助けたりすることで、付けたい力の定着を図るために、動作化や構造的な板書を大切にしています。

共有化…自分の考えや学んだことを単位時間の中間や終末にペアで話す場を意図的に設定し、お互いに理解を確かめるようにしています。さらに、まとめを書く場面と自己評価表を工夫して認め合える場を設定することで単位時間の学習課題の達成をどの児童にも実感できるように評価の工夫に取り組んでいます。

成をどの児童にも実感できるように評価の工夫に取り組んでいます。

③豊かな言語環境を目指して

言語環境の充実を図ることは、温かい言葉を介してコミュニケーション能力を高め、より良い人間関係を築くことはもちろん、相手意識を大切にしたい授業づくりにも生かされると考えています。児童会を中心とした挨拶運動、縦割り遊び、エコキャップや募金活動がその具体的な活動となっています。



▲黙って掃除の取組



▲黙って話を聞ける集会活動



▲アゴラ教室での授業

校歌

藍川北中学校校歌

作詞 平光 善久
作曲 平光 保

一、霧とわきくる 藍のいろ
長良の水の恵みをうけて
日々新たな未来を拓き
創造の意気みなぎるところ
藍川北中学校
伸びゆくいのち

二、歴史豊かに薫りたう
長塚山のみどりに学び
永遠の真理を正しく究め
友情の意気高鳴るところ
藍川北中学校
つらぬく誠

三、雲と飛び交う夢のいろ
理想の空に北斗をかがげ
未知の世界に瞳を向け
清新の意気かがやくところ
藍川北中学校
鍛えるわれら



沿革・地域の自然や風土

本校は、岐阜市の北東部、長良川と長塚山・百々ヶ峰に囲まれた自然豊かな地域にあります。昭和六十二年四月に藍川中学校から分離して誕生し、今年度で創立三十三周年を迎えます。この辺りを流れていた清らかで美しい長良川のことを昔から「藍川」と呼んでいたことなどから「藍川北中学校」と名付けられました。

平成二十六年年度から、小中一貫教育校の市の指定を受け、藍川小学校と学校の教育目標を同一のものとし、目指す生徒の姿の具現に努めています。さらに、今年度からは、PTA広報紙も合同で発行する等、九年間を見通して児童生徒を育成しています。また、「コミュニケーション」

岐阜市立 藍川北中学校

【ぎふしりつあいかわきたちゅうがっこう】

●住所 〒501-3107 岐阜市加野2丁目23番1号
●TEL (058)241-6477
●FAX (058)241-6478
●メール gichu19@aikawa-n-j.gifu-gif.ed.jp
●生徒数 161名

学校の教育目標

立志・自主・連帯



学校のたからもの



クールの指定も受け、地域の力を活かした学校づくりを推進しています。

日常生活を高め合う生徒会

①「北中宣言」

生徒会では、四本柱(仲間づくり・授業づくり・環境づくり・合唱づくり)を核にした「北中宣言」を伝統として引き継いできました。自分たちの生活を見直し、確実にやりきる力を向上させてきました。「日常生活こそが北中の文化である」という言葉を新たに加えて「北中宣言」を進化させています。

②活動を創造する新風北中

今年度の生徒会では、新たな校風をつくろうと「新風北中」というスローガンのもと、キャンペーン活動の他にも「仲間のよさみつけ」や「縦割りの球技大会(ドッジボール)」などの新たな取り組みを始めています。

学校のたからもの② たくましくアクティブな姿

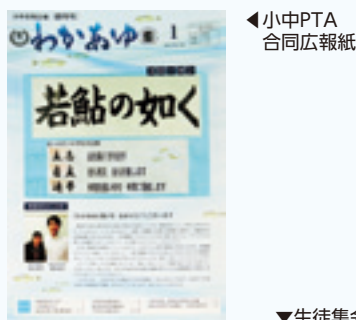
①アクティブあいさつ

今年度からは、より一歩踏み出し、たくましい姿をつくっていくことと、「アクティブあいさつ」に取り組んでいます。「アクティブあいさつ」は、「伝わる声で、会釈して、相手より先に、どこでも、いつでも」という五つの観点を大切にしています。

生徒会や学年のキャンペーンで取り組み、朝だけでなく日中も廊下であいさつが交わされるようになりました。この姿が、目標に向かって一歩踏み出す姿や粘り強く歩む姿につながっています。

②アクティブな授業

授業では、相手に自分の考えを分かりやすく伝えることや、小集団で話し合うて解決していくことを大切にしています。ホワイトボードを活用して、班で意見をまとめて発表することができるよう



▲小中PTA 合同広報紙



▼生徒集会



▲Great-Active-Card(よさみつけ)

うになつてきました。

また、二・四階にアゴラ教室を今年度より開設しました。教室とは雰囲気の違い・椅子で、アゴラ教室で学ぶ生徒からは、「教室と雰囲気の違い、学習が楽しい」「いろいろな人の考えにふれられる」という声が寄せられています。

小中学校で取り組む交流活動

学校のたからもの③

小中学校共通の学校の教育目標「立志・自主・連帯」を目指し、思いやりや貢献に重点を置いた交流活動を位置づけています。

①百々ヶ峰登山

本校の南西にそびえる岐阜市の最高峰 百々ヶ峰(どがみね)に中学二年生と小学三年生が合同登山をします。励まし合って歩いたり、食事や遊びを楽しんだりします。思いやりの心が育つ笑顔いっぱい活動になっています。

②夏休み学習会

夏休みには、小学校にて学習会を行います。中学生が「ミ先生」となつて、ドリルなどの学習を通して、分からないところを分かるまで優しく丁寧に教えています。毎年、たくさんの小中学生が参加している伝統の行事です。「小学生のときに教えてもらったから、中学生になったから自分も小学生に教えたい。」という思いが引き継がれています。

③合唱交流会

中学校では、秋に合唱交流会を行います。

学校のたからもの④ 地域の力を活かした学校づくり

①地域の方から学ぶ

十月に行う「ふれあい講座」では、グラウンドゴルフや絵画教室など十二講座を開設し、地域の講師からそれぞれの専門や趣味について学びます。地域の方とふれあいを深めるよさや、新たな世界に触れる楽しさを感じています。

また、十二月の健康ウォークでは、小学生や地域の方と一緒に校区を歩いて、地域の神社や寺院を巡り、地域の方から歴史や伝説のお話を聞きます。地域のことを知ることで、ふるさとへの愛着をもつてほしいと願っ

ています。

②地域で活躍する

地域の夏祭りでは、中学生が出店の計画を立てて、運営していく場が設けられています。小学生が楽しめるように、射的のルールを工夫したり、景品の準備をしたりと、地域の二員として活躍しています。出店はいつも好評で長蛇の列となっています。

また、地域清掃には、小中学生の多くが自主的に参加します。公園や道路のゴミ拾いや草むきをして、地域に貢献する姿が育っています。



▲夏休み学習会



▲百々ヶ峰登山



▲夏祭り



▲ふれあい講座

わが子のあゆみ

2017.9 No.449 初秋号

表紙 関市立安桜小学校

学校のたからもの 1

羽島市立小熊小学校／大垣市立江東小学校／恵那市立大井小学校／岐阜市立藍川北中学校

わが家の宝物 郡上市立川合小学校PTA 会長 坪井成巨 9

特集 第38回定期大会記念講演「育児とPTAで人生を豊かに」前編 11

講師 榊原輝重さん (NPO法人ファザーリング・ジャパン)

連載・PTAのABC (PTAの生い立ち②) 16

家庭教育応援団! ⑦ 19

実践紹介1 「家庭教育学級リーダー研修会」 in 美濃地区

実践紹介2 「企業内家庭教育研修」 in 飛騨地区

「多様性尊重の教育②」シリーズ みんな、いっしょに
岐阜聖徳学園大学教育学部特別支援教育専修 教授 安田和夫 21

保健室ノート

飛騨市立古川小学校 本田昌子 23

私の先生 ⑦

岐阜市立明郷小学校 校長 多和田雅彦 25

子育て半生記

美濃加茂市立古井小学校PTA顧問 大島将敬 27

岐阜市のPTAふれあいニュース [vol.7] 29

岐阜市立加納西小学校PTA

岐阜市立西郷小学校PTA

岐阜市立鏡島小学校PTA

岐阜市立陽南中学校PTA

私が出会った1冊の本【続32】 31

本巣市立真桑小学校PTA 林もと子

瑞浪市立日吉小中学校PTA 母親委員長 下篠さおり

わが家の約束 33

各務原市立中央小学校 PTA会長 田中博之

瑞穂市立穂積中学校PTA 副会長 広瀬千恵子

子の思い・親の願い・教育の窓 35

子の思い

各務原市立稲羽西小学校 3年 宇野瑚伯

大野町立南小学校 5年 田中碧乃

山県市美山中学校 3年 荒深遼斗

親の願い

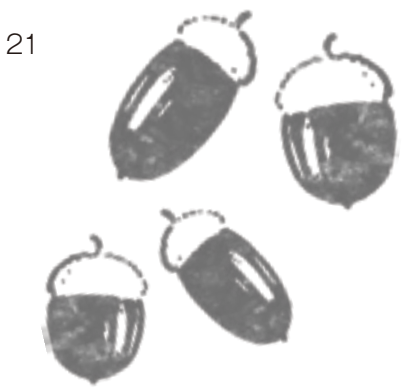
美濃加茂市立三和小学校PTA 長谷川美保

関ヶ原町立今須小中学校PTA 会長 三輪清文

教育の窓

北方町立北方西小学校 教頭 吉田圭子

郡上市立白鳥中学校 校長 片桐一男



親子ではてな 40

お試しクッキング 岐阜県学校栄養士会 42

甘長ピーマンの炒め煮

ふるさとの伝承 43

海津市立大江小学校

きらり!キッズ! 45

羽島市立桑原学園

夢中!熱中!我らが部活 47

大垣市立江並中学校

私たちのPTA 49

恵那市立明智小学校PTA

わが家の宝物

郡上市立川合小学校PTA会長
坪井 成巨



家族との時間

わが家の宝物…

それは、愛する家族と笑顔いっぱい過ごす時間！

長い人生の中で、子どもたちと今と同じように過ごせる時間は、あとどれくらいだろう。

仕事で帰りが遅かったり、家を空ける日も多いけど、早く帰れた日や休日には、子どもたちによるパパ争奪戦(笑)。日頃の疲れが吹っ飛ぶ瞬間でもあります。

一緒にお風呂に入ったたり、同じベッドで寝てハグしたり、肩車したり散歩したり、一緒に旅したりできるのも、あと少しなんだろうなあ。

子どもたちが、日に日に身体も心も成長していく姿は、嬉しくもあり寂しくもあり…。

先日の朝のこと…

自宅で仕事をしていて、疲れてそのままリビングで寝てしまっていました。

子どもたちが二階から「パパー！」って降りてきた時、長男が「しーっ。パパ疲れとるで起こしたらいかんよ。」そうしたら、子どもたちはヒソヒソ話に。

すぐに飛びつきたかったんだろうけど、私の事を気遣ってくれた子どもたちの言葉や態度に、嬉しさと幸せを感じ、あたたかい朝を迎えることができました。



ちゃんと目が覚めた時は、またパパ争奪戦が始まりましたけど(笑)

今、何気ない当たり前が、いかに尊く幸せか。かけがえのない大切なもの…

そう、愛する家族と過ごしている今この瞬間なんだと気付かされます。

この貴重な時間を、いつまでも愛情をもって大切にしていきたいです。

みんな、本当にありがとう！

「育児とPTAで人生を豊かに」

前編

NPO法人ファザリング・ジャパン
東海支部支部長 榊原輝重さん



皆さんこんにちは、榊原です。

ご紹介いただきましたように、愛知県や名古屋市との関わりで委員をさせていただいたり、自治会や学童などで地域活動に関わったり、保育士の免許を取って保育園をつくったりしていますが、本業は税理士です。

今日は岐阜県のPTAの皆さんにお話ができるということで、ありがとうございます。

さて、皆さんは夢がありますか？

私はあります。生きる喜びを学ぶ学校をつくりたい。そういう夢をもっていたことが、保育園をつくるきっかけにもなったのですが、今でも、こういう学校をつくりたいと思っています。

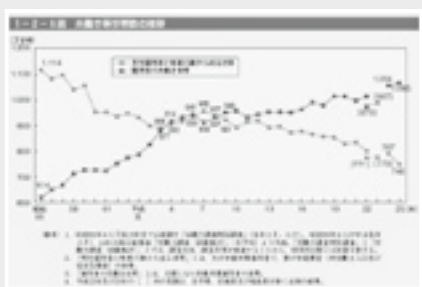
今、十四歳、中学三年生の女子と、十歳、小学校五年生の息子をもつ現役のパパでもあります。その意味では皆さんと全く一緒です。上の女の子が小学校の時にPTAを三年やりました。岐阜の皆さんはどうなんですかね。一年交代なのでしょう。何年もやっていらっしゃる方もあると思いますが。先ほど、県の会長さんに聞いたら「私は二十一年PTAに関わっています」って聞いて「うわっ、すごいですね！」ってびっくりしました。「上が二十五歳で下は今、五年生ですよ」と聞いてすごいな、と感心しました。

そんな話、聞いたことありませんか？

今はどうでしょうか？ かなり違った価値観になっていると思います。今は二十一世紀です。二十世紀とは大分変わりました。

十年ほど前からイクメンという言葉が出てきて、今は普通に一般化しています。別に、どっちが悪い悪いじゃなくて、「変わった」ということです。

例えば、こんなのがあります。「共働きなど世帯数の推移」という内閣府の発表したグラフです。共働きと、片働きの家庭を比較した移り変わりのグラフです。



昭和五十五年、私たちが子どもの頃ですね。およそ、片働きの方が倍くらいいました。一一一四と六一四。ところが、これが平成五年頃に逆転するのです。そして、どんどんその差が開いて、今では共働きの方が倍くらいいるということです。

男女雇用機会均等法という法律が昭和六十年に出たのですが、これがはずみをつけてどんどん変わってきたことが分かります。

女性が仕事を持つことについて

変わる男性の意識。これも内閣府が調査したのですが、女性が仕事を持つことについての考え方をまとめたものです。男性と女性の回答がありますが、まず男性の回答です。

今住んでいる覚王山と言う所には、日泰寺というお寺があります。参道があって自治会があるのですが、自治会の役員をさせていただいて地域にコミットしているところです。下町っぽい雰囲気の子まいで、定食屋さんもあります。息子なんかはそのオムライスが大好きで、外食というと、そこのお店という具合で、常連さんになっているようです。

笑っている父親

NPO法人ファザリング・ジャパンですが、ファザーにINGがついた造語です。

父親であることを楽しむ生き方を、みんなでつくっていかう、やっていかう、ということをつくったNPO法人です。そこでは、「よい父親」じゃなくて「笑っている父親」を増やそうぜ、ということをやっています。「よい父親」となると、いい父親像があってそれになろうではなくて、「お父さんが、ガッハッハって笑っている家庭」を想像してみてください。そうすると、お母さんも思わず面白い笑いで、お父さんもお母さんも笑っている家庭って、どんな家庭でしょうか。もちろん、子どもも笑っているに違いない。だから、働いているお父さんを支援することによって家庭支援、子育て支援をする。そ

昭和四十七年頃は、「結婚するまでは仕事を持っていた方がいい。結婚したら辞める」。いわゆる寿退職がいいんじゃないの、って男性は思っていたのですが、昭和五十九年になるとグッと変わり、「子どもが出来たら仕事を辞めてください。大きくなったら、また仕事を持つ方がいい」。だから、子どもが小さいうち、高学年になるまでの手がかかるうちは、奥さんには家にいてもらって、子どもがある程度自分のことができるようになったら、時間もできるし、教育費も要るのでパートに出て、働いてほしい。そんな考え方ですね。

ところが、今は逆転しています。今は、子どもができて、ずっと仕事を続けてほしいという人が多いです。急激にこれが入れ替わった時期があります。平成六年から平成七年頃、いわゆるバブルがはじけた時期です。この頃から世の中が大きく変わりました。まず、終身雇用が無くなりました。そして右肩上がりの給与体系も変わり、いわゆる成果主義、儲けが出ないとお金がもらえない。ということになったのです。今では、若い人を中心に非正規雇用が多いですよ。だから若い人に聞くと、奥さんには働いてほしいと思っている人が多いですね。

女性はどうでしょうか。男性と違って昭和四十七年、五十九年ずっと一位だったのが「子どもができたら仕事を辞めて、大きくなったら、また働く」でした。しかしこれも徐々に変わってきて、平成十四年頃に逆転しました。今や女性も、子どもができてもずっと働きたい、というようになりました。もちろん、パートナーからのリクエストもあったのですが、これが今、一位です。

平成十四年頃に、何があったのでしょうか。時は小泉内閣でした。この時に、派遣法によって雇用にごく不安定感を感じたのです。特に事務系統の職

ういうアブローチでやっています。

私も上の子が赤ちゃんの頃に、抱っこ紐で抱いて名古屋の栄に出ると、いろんな人から声をかけられました。年配の女性、子育て中と思われる女性、そして若い女性。独身時代一人で歩いていた時は誰も声をかけてくれなかったのに、赤ちゃんを抱っこしているだけで声をかけられる。今ですと、普通にパパがベビーカーを引つ張っていますが、十年ちょっと前はそんなふうでした。

育児についての価値観

育児における価値観も本当に変わったと思います。私が子どもの頃、昭和四十年代だったですけど、こんなふうじゃなかったですかね。

「子どもが三歳になるまでは、母親が育てるべきだ」と。今でも、ちよくちよく聞きますね。

「男の仕事は外で働いて、金を稼ぐことである」。仕事から帰ったら、妻には温かい食事を作って待っていてほしい。自分は稼いでいるのだから、家のことは任せてご飯を作っておいてほしい。男を立てるべきである。

「子どもが小さいうちから、保育園に入れるのは可哀想だ」。〇歳、一歳なのに保育園へ入れている。

業の女性の皆さんは「やっぱり仕事を辞めちゃまずい、ダメだ」って思っただんじやないかと思っています。

家事をする夫、しない夫

次に、化粧品会社が行った男性の意識調査を紹介します。

「家事をする夫は仕事もプライベートも充実している」という結果が出ました。「家事をする夫は向上心もち、やりたいことのために時間をやりくりしている。身だしなみに関心もち、隣近所との付き合いなど、人との交流を心がけている様子がうかがえる。さらに、仕事仲間との付き合いも積極的で、仕事のスキルに対する自信もうかがえる」というものです。

つまり、家事をする夫は家族とのコミュニケーションが良い。家事をたくさんやっているよ、という夫に対して、妻は最良のパートナーだと思っている割合が多いですね。そして「家族とのコミュニケーションも良好です」と答えています。一方で、家事を全くやらないよ、という夫ですと、現在の生活に満足していない割合が多いですね。そして「夫がしている家事項目をたくさん答えた奥さんは、生活に満足している」。そうですね。

この結果から何が分かるかというと、次の項目がありました。家事をする夫・しない夫に対して、「結婚している女性に聞きました。現在、十分な収入があれば、離婚したいですか？」という質問があったのです。すると、家事をしない夫では、四十七・一%、約半分近くが「私に稼ぎがあったら、この夫とは離婚したいと思った」ということです。しかし、家事をしている夫はどうかというと十三・六%。家事をすると、離婚のリスクが三分の

一になる。どうですか？これ。家事は苦手だからと言ってるより、やった方が離婚のリスクが減りますよ、ということが分かったのです。

年代で変わる女性の意識

今度は ママの愛情曲線です。自分の愛情を何にどれだけ注いでいるか? をファザーリングジャパンの仲間である渥美由喜さんが調べたのです。

まず女性です。独身時代で見ると、一位は仕事で五十位。次に趣味三十位。その次に彼氏二十位、その他というものです。結婚しました、どうなるか。一位は夫、でも五十位です。仕事はちよつと減つて二位になる。趣味はガクンと落ちます。女性つて偉いな、と思います。結婚したら、趣味を減らすんですね。男子の方、自問してみてください。女性の方はご主人をイメージしてください。結婚してから、男性は、趣味を諦めていますか？意外と、何だからだと言つて諦めませんよね。でも女性はスバツと諦めます。

さあ、子どもが生まれます。出産直後、見てください。愛情はほぼ子どもです。当然といえばそうですねですが、それに替えてガクンと落ちるのは夫です。

育児を一緒にしたかどうか

その後、子どもが成長するとだんだん大きくなるので減るのですが、この後、夫への愛情が上がるのと、そのまま地べたを這ったままのと、二分極化が認められました。この分かれ道に、何があったのか？それは「乳幼児期に、一緒に育児をしたかどうか」だったのです。

熱心な女性会員

私もPTAを三年間やりまして、分かったことがあります。それは「ママたちは奥ゆかしい」ということです。控えめで謙虚で、会長のことをすごく引き立ててくれます。だけど、頑張り屋さんでとにかくいいです。

今日も会場の外でPTA新聞とか見せてもらいました。優秀賞から佳作まですごいですよね。私も自分の小学校で、何回も名古屋市のPTAから賞状をもらったんですよ。日中、ママたちが集まって、何時間もPTA新聞を作っている。パソコンで編集してもうプロ顔負け。イラストなんかかもソフトを使っています。すごいです。

私の住む千種区の学校では、どうも歴代会長、副会長が男で、あとは皆さんママで、平日の日中に集まって活動されるんですね。

会長の人に「こういう事したいんだけど」ってある役員さんに言ったら「会長、それって母代のOK取っていますか？」って言われて、「はあ、母代？ 済みません。取れてないです」「思いつきで言っちゃダメです」って叱られちゃいました。それだけ、熱心に取組んでいるんですね。

お父さんは世間を知っている

そんな会長でしたが、パパにも役割があるのではないかなって思っています。外でお金を稼いで家に運んでくる、それだけって寂しいじゃないですか。お父さんは、世間っていうのを知っていると思います。これを家庭に運んでくる。世間知らずとか世間体とか、世間様に顔向けできないとか言いますね。そこで、世間ってなに？ということなのです。

結婚すると、つい愛する奥さんに甘えてすべてを任せてしまいます。ご飯の支度からお風呂、お掃除、みんな奥さんがやってくれる。奥さんも愛する主人のためと頑張つてやります。

子どもが生まれたら、全部取られますから、夫は寂しくなっちゃうのですね。奥さんを取られてしまったからと、名古屋ですと、錦という違うママの所に行っちゃう。家がホームじゃなくてアウエーになっている。この分かれ目は、育児を一緒にやったかどうか、だったのです。

皆さん、六十代になってやりたいことの一位は、男性も女性も旅行だそうです。「誰と？」と聞くと、男性は妻。女性は友達。愛情が友達の方へ行ってしまうのですね。

週末、スーパーなどへ行きますと、七十代のご夫婦が歩いていきます。前を行くシャキッとしたご婦人の後を、ご主人と思しき男の方がトボトボと歩いていらつしやる。男性の皆さん、ぬれ落ち葉にならないように。また、「僕も族」ってあるらしいですね。奥さんが出かけようすると「僕も」と言つてついていく男性のことです。何かやろうとすると「僕も」というようになってしまふらしいのです。ならないようにしたいものです。このように、世の中は変わってきています。

そして離婚は、イチローの打率より高いそうです。今は三組に一組は離婚すると言われています。夫婦は元々他人同士ですから、いつでも他人に戻れます。



が、世の中には内（うち）という、「家」があつて外の世界があるんですね。そして、外と内の真ん中に世間があると言われています。例えば若い子が、電車の中でお化粧したりジュース飲んだり、驚いたのは爪を切っている子がいたことです。これが外なのです。

だけれど、世間体を気にするとかいうのは、内と外の真ん中辺。ここには、知っている人が住んでいます。つまり、地域です。家を出たら、ちゃんとなさいよとかを、子どもたちに教える。お父さんは、地域（世間）を知っている男、育メンに対して域（イキ）メンじゃないかなって思いました。こういうPTAも当然、地域の活動の一つですからイキメンであってほしいと思います。

天の岩戸理論

PTA活動を楽しく過ごすヒント。今までの経験の中で思ったことをご紹介します。

まず、天の岩戸理論。日本の神話に出てきますが、太陽の神天照大御神が弟の須佐之男命の乱暴を諫めるために、天の岩戸と呼ばれる洞窟に隠れてしまったのです。太陽の神がお隠れになると、世の中は真っ暗になりました。食べ物が育たなくなったり病気が流行ったり大変なことが次々と起こりました。

困つた大勢の神々は、相談の末に洞窟の前で長鳴き鶏を啼かせてみたり、天の岩戸の前で踊つたり歌つたりして騒ぎたてました。

一九八〇年頃から同居期間が十五年以上の夫婦の離婚率は、増加しています。皆さん、十五年くらいじゃありませんか？ 高度成長期以降に結婚した夫婦、私たちですよ。バリバリ働けば働くほど離婚が近づきます。皆さん、言うのです。「夫の世話は、もう疲れました」と。

二十一世紀になって、世の中は変わりました。男の受難の時代になっています。

笑顔であいさつPTA

では、PTAの話題にしましょう。今日は岐阜県PTAの定期大会ですね。私もPTAやりました。PTAとは何でしょうか。Pはペアレンツです。親。注目してください、「ツ」と複数形のSが付いています。両親です。PTAは女性のものでありません。もちろんお父さんもPTAに参加してください。今は、シングルパパ、シングルママも多いですが、子どもにとったらシングルでも親は親です。複数形で結構じゃないですか。

Tはティーチャー、先生方です。

Aは何でしょう？　アツシエーション、協力です。つまり先生と親が協力し合う、これがPTAです。皆さん、今お隣の方とニッコリして、握手してみてください。よろしく、とあいさつしてください。ニッコリとはにかみ笑いで、皆さん奥ゆかしいですね。今日は岐阜県中からお越しのPTAのお仲間ですから、仲良くしていただきたいと思います。

お隣と手を握って、笑顔であいさつ。お子さんに
何が大事かずっと教えていませんでしたか？「笑顔
であいさつ」ですよね。親の皆さんがやらないでど
うするんですか？ やりましょう！

私が隠れて真つ暗なのに、みんな楽しくそこに騒いでいるのはなぜ？と、天照大御神は天の岩戸の扉を少し開けて外をご覧になったのですね。そこを逃さず他の神が外へ引き、天の岩戸から出ていただくことができた、というお話です。

何が言いたいかというと、PTAの役員が義務と
か輪番で回ってきたとしても、なっちゃったらなっ
ちゃったで「楽しもうぜ」ということです。義務と
して考えると辛いんですけど、やる以上は楽しも
う！名前が出ちゃったらやろう！ということですよ。

義務言葉から希望言葉へ

そのためには、義務言葉を希望言葉へ意識して変えましょう。「何とかせねばならない」というのは義務で辛いですね。これを「何とかしたいね」とか「何とかしてほしいな」とか、「・・・がいいね」に言い換えるのです。これだけで、心が少し前向きになります。言葉って大事ですね。

「ノービコーズ イエス バット イエス ア
ンド」この順番です。人と話をするときも「いやー、
それはちょっと無理です。なぜなら」よりは「そう
ですね、ただ」の方がまだましです。「そうですね
と一応受け入れる。それよりもいいのは、そうです」
そして「でももっとこうしたらいいんじゃないです
か。こうしましょうよ。」ということがいいです。「イ
エス・バット」じゃなくて「イエス・アンド」で行き
ましょう、ということですよ。

間抜けのススメ

それから、「**間抜け**」の**ススメ**です。これは、他の人とコミュニケーションする中で、時々自分の

価値観があるので「あいつは間違っている」とか「あのやり方は間違っている」とか言いますね。これを、「間」を取って話すのです。

「間違っている」と言われると、カチンときますよね、否定ですから。夫婦の会話でもそうですよ。ね。「お前のやり方間違っているだろ」って言われると、カチンとくるじゃないですか。それを、間を抜くと「君のやり方は、僕と違うね」です。「間違っているね」は否定ですが、「違ってっているね」は肯定です。

傾聴のスキル

次に「傾聴のスキル」について話します。今も女性の皆さんは、ウンウンとかニッコリ笑ってくれたりしてくれて、嬉しいですね。でも男性の皆さんは、ずっと仏頂面で見ているんですね、僕のことを。全然面白くないですかね。

「傾聴のスキル」というのがあって、これは「は行」です。は・ひ・ふ・へ・ほ、ですね。「は」はハイです。何か言われたら「ハイ」「ハイ」ですね。次の「ひ」は、驚きの「ヒエー」です。「ふ」は「ふーん」です。「へ」は「へーっ」です。「ほ」は「ほーう」です。これだけで、相手は気分が良くなります。これが傾聴のスキルといわれるものです。

魔法の言葉

心がリセットされる、魔法の言葉があります。生活の中にはいろんなことがあります。辛いこともあります。ムカつくことがあります。さあ、そんな時に、こう言いましょう。膝を叩いて「さあ、面白くなってきた！」と言ってみてください。リセットされま

す。それから、こんな言葉があります。「ついている、ついている」と言ってみてください。何かあったら「ついている、ついている」。運がついてきます。イチロー選手が三振をした後、何を言うか知っていますか。イチロー選手は「ネクスト」です。「次にはきつと」ということですね。

そして、「ワークライフバランス」です。これはPTAだけではなくと思いますが、ワークライフバランスのとれる生活をぜひ心がけていただきたいと思っています。

人生、寄せ鍋、論

「ワークライフバランス」の定義についてですが、「ワーク」は仕事。「ライフ」は人生。「バランス」をとる、これは何でしょう。ヤジロベエでしょうか。一点を中心にすることはなかなか難しいですね。私たちファザーリングジャパンでは「寄せ鍋」と言っています。

今、皆さんの前に大きな人生という鍋があると思ってください。その鍋の中で、いろいろな人生という具材が、グツグツと煮られています。この鍋を作るのは、あなた自身です。鍋奉行はあなた。

「仕事」っていうお肉が煮られています。「趣味」というネギが煮られています。「地域」という豆腐が煮られています。「PTA」というキノコが煮られています。

二十代の鍋はどうでしょうか。振り返ってみてください。二十代は、お肉を沢山食べたいじゃないですか。肉だけ。仕事ばかりでいいと思います。早く稼げるようにしたい、早く仕事を覚えたい。会社がノーマル残業デーとかで、早く帰れと言われても困る。お金もないし、使うのがもったいないから。そ

れよりは残業してでも早く仕事を覚えて稼ぎたい。そういうのも、ありだと思います。

でも、それじゃちょっと辛いので、趣味というおネギをちよつと食べてみたい。ボランティアという薬物を食べてみたいするわけです。

子育て世代の鍋

では、三十代・四十代の子育て世代の鍋はどうでしょうか。やっぱりメタボが気になってきます。健康にも気を遣うようになりますので、お肉という仕事は、少し質を良くして、脂身を落として減らしたい。でも単価はいいものの質のいいもので、お野菜もバランス良く取りたい。PTAというネギだったり、育児というキノコ類だったり、家事だったり夫婦だった、こういったお野菜もまんべんなく食べる。これが、三十代、四十代の子育て世代の鍋だと思います。じゃあ、六十代になったらどうでしょう。どんな鍋でしょう。仕事っていうお肉は、もうそんなに多くは要らないでしょう。良質で、いいお肉をちよつとだけ食べたい。仕事もそうです。いい仕事で割と稼げるのをちよつとだけやりたい。仕事よりは、介護というお魚を食べたり、社会貢献という人参を食べたりとか、いろんなものを一箸ずつ食べたい。そういうのが六十代の鍋じゃないかと思います。

さあ皆さん、大事なのはいろんな具材が、グツグツ煮られるからこそいい味をお互いが出し合って、あなたの大切な人生の、いい鍋になっていくということです。世代世代で作る鍋は変わってもいいです。これがワークライフバランスだと思っています。皆さんも、ワークライフバランスのとれた人生を心がけてみてください。

続く



から見れば公的通達の第一号だったので、これをもって日本のPTAの紀元元年とするのは妥当だと思

その時の通達が幸いに私の手元に残っているが、紙はなく、印刷機もなしという惨憺たる当時の窮乏をそのままに、ザラザラの仙貨紙に書かれたタイプ謄写刷りである。しかも一枚の紙に裏表両面刷りなのだ。

馬小屋の中で生まれたと伝えられるイエスさまの誕生にも似て、家庭も学校も社会も窮乏のどん底にあった中から、家庭と学校と社会の協力を求めて、日本にPTAは生まれたのである。

以上は「岐阜県PTA三十年のあゆみ」より、当時の文部省教育局視学官二宮徳馬さんの記述。以下は昭和二十二年三月、文部省がPTAの資料として都道府県知事あてに送付したもので、日本におけるPTA誕生のきっかけである。「より良いPTA活動を求めて（PTA観の確立）」昭和五十四年三月、日本PTA全国協議会発行より。

ちょうどこの手引書が配布された昭和二十二年三月には、教育基本法や学校教育法が公布されて、新しい日本の教育の基本が定まり、学制が現在の六・三制に変わったのである。

父母と先生の会

「教育民主化の手引き」

1 趣旨と目的

子どもたちが正しく健やかに育っていくには、家庭と学校と社会が、その教育の責任をわけ合い、力を合わせて子どもたちの幸福のために努力していくことが大切である。子どもたちは国の宝であると言われているが、国や社会が榮えてゆくということは、この子どもたちが私たちより良くなっていくことである。どの国でも子どもの問題については非常な注意と努力を払い、理解をもつことに努めている。子どもの問題に関心をもつことは、国や社会をよくしていくことに結びついてくるので、それは同時に社会改良運動への第一歩ともなり、また私たちの生活の水準を上げていくこととする運動ともなるのである。

子どもたちのために尽くすのは、まず子どもたちの生活や気持ちや性質を十分に理解することが必要である。それから、子どもたちが学校でどんな教育を受けているか、学校の外でどんな生活を送っているか、つまり、子どもたちが生活している環境を知らねばならない。学校で教えられ、しつけられたことも、社会が悪ければ次から次に打ち壊されていって、

先生の努力も空しく崩れていく。家庭は、子どもたちがその生活の大部分を送っているところであるから、そこで子どもたちが受ける影響は非常に大きい。

ところが現在の実情はというと、この子どもたちに影響を与えるこの学校、家庭、社会という三つの場所がお互いに密接な連絡を持たず、みんなばらばらになっていることが多い。

これでは子どもたちの教育が充分に実を結ぶことはできない。この三つの場所がお互いに充分に連絡し、子どもたちに与える影響を考え合って補い合うことが何よりも必要である。そして、子どもたちにいろいろな要求するのみでなく、子どもたちの幸福のためにどうすれば一番よいかを真剣に考えて、その実現に努力していく。必要とあれば、子どもたちの保護のための法律や規則を、国や公共団体に作ってもらうように請願する。必要な施設を増設してもらう。娯楽とか厚生の仕事を進めてもらうとかいうように、強力に活動をする責任があるのである。これは明日の日本、民主主義日本を創り上げていくために、ぜひ私たちがしなければならぬ仕事の一つではあるまいか。（中略）

日本PTAの発足年

PTAに関する公報の第三号が有名な「父母と先生の会」―教育民主化への手引き―だ。これが文部省社会教育局長柴沼直の名で各地方長官宛に出たのは昭和二十二年三月五日。順序からすれば三号だが、形式

2 「父母と先生の会」ができると、
どんな利益があるか

(1) 学校の設備や備品を
整えられるようにする

学校教育が充分に行われるには、
学校の設備がき得る限り整うこと
が必要である。学校の先生たちがど
れほど努力しても、教育の設備が不
完全であったり、その資材が不十分
であつては、先生方の努力も実を結
ぶことはできない。

「父母と先生の会」ができると、
教育に関する民論も高まり、国や自
治体がこのために多くの経費を計上
するような強い機運を作り出すこと
ができ、また必要に応じては当局に
誓願したり、運動したりする中心が
生まれる。また「父母と教師の会」
自身で国および自治体の予算のほか
に学校改善のために資金を調達する
ことも可能となる。

例えば学校の図書室を整備するた
め、図書を持ち寄ったり書籍を購入
する。ラジオ受信機を増加して学校
放送の十分な活用を図る。蓄音機や
映写機の購入に協力して、児童生徒
がよい音楽を聴いたり、教育映画を
見ることができるようになるとか、
あるいはまた学校の工作室を整えて
児童生徒が充分に実習や実験ができ
るようにすることもできる。

(5) 児童生徒を、よい環境の中に
おくことができる

学校でいくら良い教育をしても、
社会が良くならなければ、子どもた
ちは周囲の環境に引きずられてしま
う。世の中には、いろいろ子どもた
ちの教育から言つて面白いくない事情
がなくはないし、社会に出ると様々
な誘惑が待ち構えていて、放任して
おくと社会の悪に子どもたちは染
まつていく。この青春期の少年や少
女を常に指導して、人生の行路を踏
み誤らしめないことは、大人たちの
重大な任務であらう。

そこで「父母と先生の会」が中心
となつて、環境を良くしていくため
にいろいろと工夫をするとともに、
好ましくないことや現象を少しでも
無くしていくことに努める。「父母
と先生の会」は、このように社会の
支柱ともなり、正しいことや良いこ
とが促進され、不正と悪が駆逐され
るための有力な発言者となること
ができる。

例えば、児童生徒のために有利な
図書や映画や紙芝居、幻灯などの普
及の促進運動を起こすとか、反対に
好ましくないものに対しては「父母
と先生の会」の名で警告を発すると
か、風紀の改善や各種施設の改良等
に協力し、社会の環境を良くするこ

このように国民の全部が教育に関
心をもつて、児童生徒の幸福のため
に図ることができるようになる。

(2) 義務教育を受けるべき子ども
が全部就学できるようにする

新しい憲法で、国民はその能力に
応じて等しく教育を受ける権利を与
えられることになったが、家庭の事
情や経済上の問題で就学できない児
童生徒ができたのでは、せっかく与
えられた権利が空しくなる。そこで
「父母と先生の会」では、このよう
な学校へ通えない者、あるいは経済
上の理由で学校を休んだり、中途退
学しなければならぬような児童生
徒を無くするために、関係方面と交
渉したり、その経費の計上を誓願し
たり、それらの児童生徒の世話をみ
たりして、すべての児童生徒の就学
を促進する。またこのような問題で
困つてゐる家庭の世話を引き受けた
りするし、困つた家庭はこの「父母
と先生の会」へその旨申し出て相談
することもできるのである。

(3) 民主主義の教育が理解される
ようになる

このたび学校制度が改革されるこ
ととなり、民主主義国家にふさわし
い学校教育が行われることとなつ
た。従来の学科目や学科の内容も変
わり、教科書も新しく書きかえられ、

とによつて児童生徒を保護すること
も、その大きな仕事と考えられる。

更に児童生徒の幸福の増進のため
に、子どもの会やお話し会や遠足や
運動会を開催するとか、あるいはま
た児童生徒のための学芸会、映画会
などを行うこともよければ、児童図
書館、遊園地、会館等の設置を民論と
して高め、当局に運動することもよい。
かくして良き環境を創り上げてい
き、一方、不良化を防止するため、
各方面の注意と協力を要請すること
もできるであらう。

(6) 児童生徒の保護対策をたてる
機運が生まれる

児童生徒を各種の危険、災害より
防止し、その保護に努めることは「父
母と先生の会」の最も重大な仕事の
一つである。少年保護法その他これ
に関係した法律が公布され、また公
布されんとしてゐるが、これらの法
律が正しく実施され、適用されてい
るか。「父母と先生の会」において
充分監視することが必要である。更
にまた、保護対策について現在の実
情を十分に研究、調査を進めるとと
もに、将来必要な手段を講ずるとか、
場合によつては保護立法などについ
て「父母と先生の会」の名で当局へ
進言し、民論を高めていくことが必
要であつて、そのために、このよ

討論法や自由研究が取り入れられ、
学校放送やその他の新しい教授方法
が大いに利用されることとなつた。
また希望する学校においては、男女
共学が実施されることとなつた。

こうして父母が習つたのとは異
なつた学校教育を、今の児童生徒は
受けているのである。そこで教育に
理解をもち、学校の先生と教育の責
任を分かち合うためにも、どうして
も、これから行われようとしてゐる
教育内容や方法への理解を深めてい
くことが必要となつてくる。

従来、両親の多くは自分たちの子
どもが学校で何をしてゐるか、どん
な教育を受けてゐるか知らず、自分
の子ども本位に物を考えたり、教育
に理解がないために自分勝手なしつ
けや指導をしたりして、学校の教育
を無自覚に打ち壊してゐることが多
い。子どもは家庭と学校とで違つた
指導を受けて、どうしたらよいか去
就にまよつてしまふことになる。先
生もまた生徒の学校外の生活や家庭
の状態を知ることにより、学校教育
を更に一層完全なものとする材料が
得られる。

このように、「父母と先生の会」
によつて、父母と先生が子どもの教
育について一致した考えをもち、よ
りよい教育の実をあげるために協力

うな組織が全国にできて、強力な影
響力をもつようになることが望まし
いのである。

發育盛りの年少少女の榮養のため
の各種の配給への考慮や、年少の少
年少女を、危険な職業から保護、年
少労働者保護のために、その年齢の
引き上げなど、社会問題が複雑にな
るに伴つて、年少保護対策は今後
益々重要さを加えると思われる。こ
れらについても、この会のもつ社会
的意義は大きい。

(7) 先生の生活を保護することに
協力できる

教育者が、その天職である教育に
専念することができるとともに、国
家や自治体において教育日本の再建
のために、いかに重要であるかを充
分に認め、教育者の生活を保証する
ことが何よりも必要である。この点
から教職員の待遇改善の機運を促進
することが第一要件であるが、これ
らの物質的援助ばかりでなく、教育
者の日常生活が潤いある豊かなもの
となり、先生と言う職業が社会から
尊敬されて、明るい希望に満ちたも
のとなつていくことが望ましい。

ところが現在の先生の経済生活、
社会生活が他の人々の生活に比べて
恵まれないのみならず、その努力が
社会から報いられるところも少ない。

するようにならう。

父母は「父母と先生の会」によつ
て自然に学校教育に興味と関心がも
てるようになり、教育問題について先
生方と談じ合つたり、また實際を見学
したりする機会に恵まれて、家庭での
学習の指導に非常に好都合になる。

(4) 自分たちの知識や教育を
身につけることができる

子どもたちの新しい教育を理解す
るには、父母も集まつて研究したり、
見聞を広めたり、討論しあつて、自
分たちの知識なり教養なりを高めて
いかなければならない。子どもたち
の知識なり教養なりを高めていかな
ければならない。民主主義日本を建
設するには、国民全部が民主主義と
はどういうものか、民主主義的な生
活とはどんな生活を理解するため
に勉強することが肝要である。

その方法として、例えば両親学級
や講演会を開いて時代に遅れないよ
うにする。その際、児童心理や児童
の發育などの問題の研究は、忘れて
はならないことの一つであつて、研
究を積んでくると、子どもに対して
の正しい理解とそれに基づいた教育
をするには、絶えず研究と努力とが
必要なのであるから、この会を通じ
て父母とともに自分を高めていく
ことができるのである。

「父母と先生の会」として、児童
生徒の教育を分担してゐる教育者に
対して、もつと感謝の運動を起こす
とともに、教育者の生活を愉快なも
のとするために努力をする必要があ
る。そうなれば、先生方も教育者と
しての自覚を一層高め、教育の責任
を痛感して尊敬されるに値するも
のとなるために、ますます努力する
ようにならう。「父母と先生の会」
はこの意味において、両者が緊密に
結びつのに大いに役立つのであつ
て、「父母と先生の会」はまことに
重要な組織であるといえよう。

(8) 先生からいろいろな社会教育に
協力してもらへるようになる
子どもは教育は学校のみでなく、
社会や家庭でも行われるものである
から、学校の先生たちには学校教育
と同様に、学校外においても教育に
大いに協力してもらふ必要がある。
先生たちの方からも進んで社会の公
僕として、社会生活を指導する仕事
を分担しようという気持ちが出てく
る。自治体の学校であるから、この
先生たちに市町村のために今まで以
上に父母と一緒になつて働いてもら
うきっかけが、この「父母と先生の
会」から生まれてくると思う。社会
教育について学校の先生にお手伝い
を願うべきことは非常に多い。続く

実践紹介2 「企業内家庭教育研修」 in 飛騨地区

企業内家庭教育研修とは

家庭の教育力の向上と地域社会全体での子育ての推進を目的に、県が企業・事業所と連携しながら、子育て中の親だけでなく、これから親になる若い従業員、子育てが一段落した従業員、管理職など幅広い層を対象として開催している研修です。

昨年度は県内25事業所において32講座が開催され、1,323人が研修を受講しました。
今回は、飛騨地区で実施した企業内家庭教育研修を紹介します。



日 時	平成 29 年 3 月 23 日 (木) 13:00 ~ 14:30
場 所	古川製材株式会社[NOZOMI HOME](高山市)
講 話	「子どもの育ちと親の学び」
講 師	飛騨教育事務所教育支援課 課長補佐 室屋 宏平
研修概要	

家庭教育への関心を高め、子どもとの関わり方を学び合う中で、子育て力を高めるとともに、職場のコミュニケーションを深めていく親学びの機会とした。

参加者の感想 (一部抜粋)

- ・まだ子どもはいませんが、これから子育てしていく上で、バランスのとれた教育ができるようにしたいと思いました。
- ・働いていると、他で開かれるこのような研修に参加できないので、会社内で学べることは良い機会だと思います。
- ・子どもがいくつになっても役立つ情報を得たいので、今後とも研修を受講したいです。



岐阜県では、企業内家庭教育研修のコーディネートを行っています。研修テーマに合せ、講師派遣も行います。
県事務所担当者までお気軽にお問い合わせください。

県のホームページでは家庭教育に関わる情報を発信中！ぜひご覧ください！！

- －掲載内容－
- ・平成23～28年度家庭教育学級の実践
 - ・家庭教育学級運営マニュアル「みんなで子育て」
 - ・家庭教育プログラム「みんなで子育てⅡ(乳幼児期編)」
 - ・家庭教育プログラム「みんなで子育てⅢ(小・中学校編)」
 - ・家庭教育プログラム「みんなで子育てⅣ(次世代編)」

岐阜県 家庭教育学級

検索



お気軽にご相談ください！

家庭教育学級や企業内家庭教育研修等、内容から講師選定までご相談に応じます。

環境生活政策課
西濃県事務所
中濃県事務所
可茂県事務所
恵那県事務所
飛騨県事務所

☎058-272-8752 (直通)
☎0584-73-1111 (内線219)
☎0575-33-4011 (内線210)
☎0574-25-3111 (内線208)
☎0573-26-1111 (内線208)
☎0577-33-1111 (内線206)

実践紹介1 「家庭教育学級リーダー研修会」 in 美濃地区

家庭教育学級リーダー研修会とは

家庭教育学級の対象となる保護者の実態に応じた学級運営ができるよう、家庭教育に関する情報共有やリーダー相互のネットワークづくりを目的とした研修会を県内6地区で開催しています。今回は美濃地区の様子を紹介します。

平成28年度の成果と課題

- 研修会への参加人数は年々増えている。
- 研修を通して家庭教育学級の必要性や運営方法等を理解し、前年度の取組を工夫改善した実践が増えてきている。
- 親子のコミュニケーションを深めるために、「話そう!語ろう!わが家の約束」運動などに取り組む団体が増えてきている。
- 年間計画立案前に研修会があると、学んだことを活かしやすい。

そこで今年度、美濃地区では・・・

- ①各市で日程を設定し、年度の早い時期に開催
- ②地区重点の明確化
- ③学びを計画立案に活かせる研修内容
- ④年間計画様式の改善

<開催日>

美濃市リーダー研修会 4月12日(水)
郡上市リーダー研修会 4月13日(木)
関市リーダー研修会 4月25日(火)
(乳幼保午前・小・中午後)

郡上市

関市

美濃市

研修の流れ ◇美濃地区家庭教育学級のテーマ◇ 「学びのある家庭教育学級をめざして」 ◇研修のテーマ◇ 「知ろう!活かそう!」

◇全体会

県・事務所からの説明(家庭教育学級の大切さ) 実践発表～実践インタビュー～

- ・昨年度の優れた実践の中から、各市1～2団体の実践をインタビュー形式で発表。発表された前年度役員の熱い気持ちと実践力に温かい拍手が送られた。



▲研修会の様子

◇グループ別演習(家庭教育プログラム体験)

- ・「話そう!語ろう!わが家の約束」運動につなげやすいプログラムを体験した。

◇市担当課の説明

◇年間計画相談タイム

- ・園・学校ごとに、役員さんと指導者の先生方が年間計画などについて相談した。



熱心な相談タイムの様子▶

このような成果が得られました！

【アンケート結果より】(美濃市・郡上市・関市)

・全体研修・・・満足・おおむね満足	97.7%
・グループ研修・・・満足・おおむね満足	99.3%
・配布資料・・・満足・おおむね満足	93.4%

市の説明会とリーダー研修会の一体化開催について
⇒負担が減ってよい・分かりやすくてよい **85.7%**
・教頭先生や市の担当者の方と相談して、学んだことをすぐ計画に活かせるので、とても良かった。

参加者の感想より (一部抜粋)

全体研修について

- ・何をどうやったらいいのか全く分らなかった中で、資料もたくさんあり、分かりやすかったです。
- ・家庭教育学級とは何か、今後どう進めていけばいいか、分かりやすく理解できました。

実践発表について

- ・前向きに実践された方の話を聴いて、楽しんでやってみようという気持ちになりました。
- ・インタビュー形式は、前年度役員さんの思いが十分伝わってきて刺激を受けました。

グループ研修について

- ・初対面の方とも気軽に話ができて、短い時間の中で楽しく交流ができました。こうして一度体験しておく、次に自分たちがやってみる時に、役に立つと思います。
- ・同じ世代の子どもをもつ親さんと話ができて、皆さんの家庭の約束や、取り決めなどがよく分かりました。

ご多忙にもかかわらず、リーダー(役員、学校職員)の方々には多くのご参加をいただき、ありがとうございました。前向きな気持ちで学校や園にお戻りいただき、現在、県内全域において、学びのある家庭教育学級が開催されています。各地域での家庭教育学級の様子は次号以降、順次紹介していきます。

【多様性尊重の教育②】シリーズ みんな、いっしょに

違いばかりにとらわれず—同世代の難病の友達との出会い—

岐阜聖徳学園大学教育学部特別支援教育専修 教授 安田 和夫

1 ゲストティーチャー登場

先日、私の大切な友人である日比貴斗君とのお母さんのゆかりさん、そして、貴斗君の医療的ケアを担当する看護師上田さんに大学に来ていただき、私の授業に、ゲストティーチャーとして入っていただきました。授業は、「重複障害・発達障害者の心理と教育」という二年生の授業で、三十四名の特別支援教育を学ぶ学生が受講しています。

事前に、貴斗君のことについては話をしておきましたが、実際に、貴斗君が、横たわったまま寝たきりの姿で登場した時は、多くの学生は、どのように話ができるのだろう、交流できるのだろうか、とまどっていたと思います。

2 お母さんのお話から

貴斗君は、生まれて間もなく、母乳を吸う力が弱く、すぐに疲れて寝てしまうなど、お母さんから見て、気がかりなことが多く、病院を受診したそうです。しかし、原因がわからず、いくつかの病院をまわって、やっと、「ウエルドニッ

ヒホフマン症Ⅰ型」という重篤な難病であることがわかりました。医師からは、脊髄の運動神経細胞の病変によって起こる進行原性の筋萎縮症で、体幹、四肢などが自分の意志では動かすことができないこと、治療方法が確立されておらず、これまでの症例をみても、小学校入学を迎えられるかどうかという厳しい宣告があったそうです。

もし、ここで後ろを向いたら、自分が保てず、心が折れてしまうと感じたお母さんは「とにかく前を向いて歩こう」「この子の命を輝かせたい」と心を決め、貴斗君の入院、治療を優先させるとともに、ベッドサイドで、毎日、読み聞かせやことばのやりとりを始めました。少しでも、心を通わせ、刺激を受けることによって、さまざまなことを学んでほしいと思ったからです。しかし、お母さんは、考えます。このまま病院の生活のままでは、貴斗君に、生きた学びや楽しさを経験させることができないのではないかと考え、重大な決断をします。

在宅医療に切り替える、すなわち、自宅で生活することにしたの

です。あわせて、地域の保育所に通わせることができるようにお願いすることにしました。紆余曲折はありましたが、当時の園長先生の英断もあり、お母さん付き添いの園生活が始まりました。

横たわった貴斗君をめずらしそうに園児が囲んで言ったそうです。「ねえねえ、死んでるの?」「ちがうよ。元気だよ。でもね、体を動かすことが難しいんだよ。」「そっか、砂遊び、一緒にできないね。」「そうだね。本当はみんなと一緒に砂をさわって遊びたいの。でも、見ているだけでも楽しいよ。」「うん、わかった。もってきてあげる。」しばらくすると、屈託のない笑顔いっぱいの子どもたちが、手に一杯の砂を運んできて、貴斗君の手にふりかけてくれたそうです。お母さんは、貴斗君がこうして保育園で子どもたちと生きた学びができることに心から感謝したそうです。

しかし、いよいよ就学を迎え、小学校、特別支援学校のいずれかを就学先として選ぶことになった際、「身辺自立ができていない子

を受け入れることは小学校として困難」と言われ、その理由が悲しく思え、失意に沈んだそうです。それでも、ここまで繋がってきた子どもたちとの関わりを閉ざしたくないと考えて、特別支援学校への入学とともに、週一回の交流教育を願い出て、親子での居住地校交流が始まったそうです。お母さんのお話は、その後の特別支援学校での学校生活、そして、現在の卒業後の生活と進んでいきました。

3 貴斗君との交流タイム

学生たちは、どのような方法で、貴斗君が、お母さんや看護師の上田さんとお話しているのか、興味津々です。お母さんは、現在の貴斗君が自分の意志で動かすことができるのは、一本の手指の関節のミリ単位の上下運動と、瞳、瞼の開閉と説明した後、かすかな指の動きを使って、特殊スイッチでパソコン操作し、インターネット、ユーチューブを見たり、文字を打ったりしていること、瞳の動きと瞼の開閉により、一文字ずつ、文字

を確定して、読み手（お母さん）を介在して、誰とでも話ができること（オリジナルアイコミュニケーション手段）を説明してくださいました。

学生たちは、実際に、貴斗君のコミュニケーション方法をみて、「なるほど」「すごい」と驚くとともに、お母さんが貴斗君の可能性を信じ、編み出したコミュニケーション方法であることに最も感銘を受けたのではないかと思います。

学生の質問に的確に答えてくれる貴斗君。次第に、そこには、同世代の一人の青年、仲間がいるという感覚が広がってきました。貴斗君から学生に対して、「僕の好きなアニメはプリキュアですが、皆さんは、どんなアニメが好きですか?」という質問がありました。「小さい頃は、○○○を観ていました。」と過去形で話す学生が多い中、ある男子学生が「僕も、貴斗君の好きなプリキュアが大好きです。特に、初代プリキュアがお気に入りです。」と発言。「君って、そんなに詳しいの?」「そういうキャラ?!」会場は大盛り上がりでした。

しばらくすると、貴斗君とお母

さんが何やら話し合っています。

「先生、どんな質問でも大丈夫ですか?」と聞かれたので、「ええ、大丈夫ですよ。」と答えると、お母さんが、おもむろに「実は、皆さんの履いておられる靴の色が知りたいそうです。貴斗は、靴フエチなんです。できれば、女性の方限定でお願いします。」と言われました。学生たちは、さらに盛り上がり、同じ思春期を生きている者同士という実感が一気に込み上げてきたようです。スカートの裾を気にしながらも、大きく足を振り上げて「黒です!」「見えますか?黄色です!」と、貴斗君に見えるように紹介し始めました。それは、一気にカーテンが開かれるような、互いの心のありようが鮮明に見える瞬間に思えました。

4 違いばかりにとらわれず

学生たちは、貴斗君に質問する際には、すぐ傍まで来て、話していました。どの学生も、「握手していいですか」と言って、貴斗君の温もりのある手を握りしめてから、質問に入りました。何の申し

な人柄に触れる中で、「人として関わる」とこの大切さに気づいていった結果の自然な振る舞いでした。一時間三十分の授業は、楽しくも充実したものでした。私は、最後に、お礼を述べると共に、学生に向かつては「誰に対しても、こうした人としての温もりを感じつつ、関わり続けてほしい。貴斗君とも、一人の友達、仲間として関わり続けてほしい。」と話しました。

私たちは、とすると、自分との違いばかりに気がとらわれて、大事なものを見失ってしまう恐れがあります。温もりを感じる中で、直接ふれあうことを通じて、あるいは、対話や交流をしていく営みの中で、共通するものが見えてくるはず。「障がいや難病がある」ことは、一部であって全部ではありません。まず、今を生きる同世代の若者であり、命を輝かせる同じ「人」なのだということを忘れてはならないと感じました。

保健室ノート

●飛騨市立古川小学校
養護教諭
本田 昌子

子どもたちが、生き生きと活動する保健指導

本校に赴任して三ヶ月が経ちました。前任校（児童数十五名の極小規模校）の三十倍の学校に赴任して毎日大勢の来室者の対応と、健康診断に追われる毎日が続きました。

そんな中で、子どもたちが健康に関してどの程度関心を持っているか確かめるために、今年度保健室の掲示を興味あるものにしようと考えました。併せて児童の保健委員会の活動も常時活動を実行うだけでなく、健康の情報発信をする活動にも取り組むことにしました。

四月は実物大の身長平均を掲示しました。子どもたちが自分の身長と比較するために、掲示物の前に立って楽しそうに

始めました。

自分の身長と比べていました。健康キャラクターの名前の募集も行いました。八十枚の記入用紙を準備しました。大きく宣伝はしませんでした。決まった名前は「けんくん」と「こうちゃん」でした。決まった名前とみんなが考えてくれた名前を掲示したところ、一カ月以上経過した今でも、名前をみて楽しそうに会話する姿を見かけます。自分が関わることで一層興味が増すのだと思います。

児童の保健委員会は、月二回程度あります。常時活動をきちんとやることはもちろんですが、健康の意識を高めるために、自分たちの活動が役立っていることを自覚できる活動を仕組むことにしました。まずは自分たちの学級で「姿勢のアンケート」をとり、集計をすることから

しました。集会の発表の内容にこの発表の結果を盛り込んだところ、「あつ！自分が書いたことだ。」という声が聞こえてきました。これも自分が関わることで意識ができた結果です。

健康診断の意義や健康の意義を理解して検診を受けたり、健康に関する知識を知らせる方法を少し工夫すると、子どもたちは非常に興味をもってくれることを今更ながら確かめることができました。

七月は委員会の「第二回全校に伝える活動」として、歯科衛生士さんから習ったブラッシングに関する内容を下級生に

アンケートの集計方法も、こちらが提案したやり方だけではなく、自分たちで工夫していました。集計も終わりその結果を発表したい人は？と尋ねたところ、委員会の男子が何人も手を挙げました。代表三人で二回の放送を終え、次は集会活動で「よい姿勢で生活することの必要性と、簡単な姿勢体操」を行うことになりました。子どもたちは全校の前で、一人一役で発表をすることで、自分たちがどのように動くといいのかを意識して、考えて動くことができました。

発表後みんなで集まり自分で満足できる発表ができたか尋ねたところ、全員が手を挙げました。子どもたちの満足げな顔をみて、こちらもほっとしました。その発表で使用した資料を早速、廊下に掲

教室でブラッシングについての説明をする委員



示しました。すると「あ！しせいシャキットマンだ！」と廊下から声が聞こえてきました。

五、六年生だけに行った「姿勢のアンケート」の結果を発表したので、一、四年生の中で、「自分たちはやらなくていいのか」と言ってくる子がいました。関心を持ってくれていることを知り、早速「姿勢のアンケート」を保健便りの裏に載せて一、四年生対象に、「協力できる人は保健室の前の箱に書いて入れてください。」と記入して配布しました。どの程度反応が返ってくるかなと思っていたところ、七十五名分回収することができ

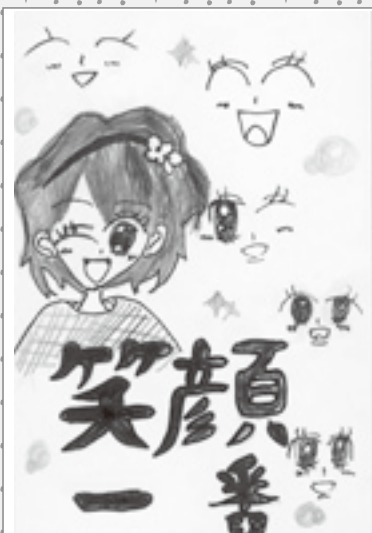
さわやか集会での発表の様子



pleasure イラスト&クイズ



長井 智也（養老郡）



服部 蒼（美濃市）

QUESTION -1

「さか」は「さか」でも、突然現れる「さか」は？



出題・五十川 英紀（揖斐郡）
〈答えは41ページ〉

先生との思い出 小学生の頃の私

岐阜市立明郷小学校 校長

多和田 雅彦

自分の小学校時代の先生のことを振り返りたいと思います。

小学校一年生のときの担任のA先生は、体育の得意な男の先生でした。当時身体が小さくて、水泳も苦手だった私は、プールの端でうずくまっているような子でした。他にも何人か同じような子がいたと思います。

そんな様子を見て、先生は一人ずつ呼んで、「先生の背中に乗ってごらん。先生がカメになってプールを泳いであげるよ」と言い、その言葉どおりに、私を背中に乗せてスイスイと泳ぎ始めました。途中、先生が水中にもぐると、当然私も水の中へ。怖くて先生の背中にしがみつくと余計に身体は水の中へ……。今から思えば、それが先生の作戦だったのだと分かります。先生のおかげで、少しずつ水に慣れ、プールの時間が楽しみになりました。他の子も同じだったと思います。

小学校四年生の夏、私の母は病気で亡くなりました。その時の担任の先生は、音楽の得意な女性のB先生でした。夏休みにお葬式があり、クラスみんなと先生がわざわざ来てくれたことは、今でもはっきりと覚えています。ある時は、合唱団のオーディションにも誘っていただきました。残念ながら落選しましたが、大人になった今も音楽好きなのは、多分先生がとても優しくったからだと思います。

小学校六年生のときの担任の先生は、社会の得意な男性のC先生でした。C先生と過ごした六年生の思い出はたくさんあります。

当時の私は算数が苦手でした。五年生のときから、「僕は他の子よりも計算が遅いなあ」と思っていました。また、計算ドリル以外に、文章題ドリルもあって、よく宿題に出ましたが、「時間と距離と速度」の問題になると、もう何が何だか分からなくて、泣き出しそうだったのを覚えています。そんな風だったので、算数の宿題は進んできず、いつもしなままノートを提出していたので、何回も先生に叱られていました。といっても、怒鳴られたような思い出はありません。そんなことが続く中で、毎週一回、夜に自分の叔父のところ算数を習いに行くようになって、少しずつですが、算数が分かるようになり、授業も分かるようになって、宿題も自然にできるようになりました。そんな私のゆつくりとした変化を、先生が褒めてくださったことはとても嬉しかったです。

また、学級会の授業で司会をしたのもよく覚えています。通っていた小学校の主題研究が特別活動だったのかも知れません。たくさん先生の前で、司会をしながら学級会を行いました。議題が何だったのかはすっかり忘れてしまいましたが、クラスの一人ひとりの意見を聞きながら、整理していくのが大変だったのはなんとなく覚えています。司会をしながら、先生から、たくさんアドバイスを、すぐ傍でしてもらったので、何とかやり遂げられたのでした。

社会や国語の授業では、「事実」と「考え」をきちんと区別することや、新聞や作文にして文章にまとめる場合、必ず基になる内容は、勝手に自分の文章とせずに「引用」しなくてはならないことを、徹底して教えてもらいました。図鑑をみて写したことだけでは、ちゃんとした新聞や意見文にならないことを、「引用」の件を通してはつきりと理解しました。

その他にも、色々とお世話になった先生はたくさんいました。こうして小学校時代の恩師の先生方のことを思い出してみると、小学生の時に教えていただいたことが、自分の教員としての歩みの中で、その時々を支えとなっていることを感じます。

私が、恩師の先生方から受けたことを、少しでも今の児童生徒に返すことができるように、一人の教員として、また校長として、実践をしていきたいと考えています。



PN. 柴垣岳人 (岐阜市)



PN. 37458 (損斐郡)

QUESTION-2

ノミなのに泳げるノミってな～に？



出題・安藤 央菜 (本巢市)
《答えは41ページ》



PTAキャラクター

出会いの先に

子育て半生記

美濃加茂市立古井小学校PTA顧問 大島 将敬

娘が学校の全校朝会で塗り絵の賞をもらった。まだ入学したての春のことだ。

それは、その年に生まれたPTAキャラクターに色をつけるというコンテストだった。

その年の夏休み、私が子どもと共にラジオ体操に参加していた時、娘を賞に推薦してくれた方にお礼を伝えた。その時のPTA会長さんであり、キャラクターの生みの親でもある。この出会いが契機になり、翌年のPTAの役員のお誘いをいただくことになった。

娘が入学した時から朝の登校時には時間の許す限り危険な箇所までの見送りをしていたが、そこにはかわいらしい友達との出会いがある。ほんの僅かな時間ではあるが、子ども達が目を輝かせて色々な話をしてくれる。本当は話をしながら道を歩くのは良くないらしいが、私は無駄に元気が心情のため、「楽しくいこう」としりとりや、九九を言いながらの貴重な時間が気持ちを穏やかにしてくれた。娘と同じ世代の子どもたちをもっと知りたいと思う。今もそんな時間を楽しんでいる。

そして、会長を務めることとなった二年目、今度は懐かしい出会いが待っていた。いろいろな学校を訪問する機会があり、そこで出会ったのが、私が小

学六年生の時の担任だ。その時はタイムスリップしたような感じだった。随分と世話になった先生であったが、月日は流れ、お互いに、子どもの話を仲介にして酒を酌み交わし、担任の先生を独り占めできることに人知れず興奮していた。自分を育ててくださった先生が、傍でまた自分を応援してくださることが本当に嬉しい。

私の住む市は外国籍の方が多く住んでいることもあり、学校には約一三〇人の外国籍の子どもたちが通っている。そんなグローバルな出会いもあり、今ではブラジル人の大切な友人ができ、夏には一緒にバーベキューを楽しんでいる。そして彼らの文化や習慣、言葉を勉強させてもらっている。日本で生涯を終えることと決めた彼らの強い気持ち、一生懸命さに本当に心が動かされ、私も丁寧に生活がしたいと思うようになった。

このように振り返ると、娘が小学校に入学してからの人との出会いはそれまでとは少し「質」が変わったように思える。出会った人たちは皆、なぜ私を変えてくれるのだろうか。

実は、最近義父を亡くした。生前、妻は義父のことを、出不精で口下手であり社交的でないところを自分とよく似ていると言っていたし、私も寡黙なタ

で育てるものではない。子どもが縁あってつながっていく人たちに温かく見守られ、助けられ、支えられ育っていく。親として感謝してもしきれない。今や人生の中間点を過ぎたならば、今までの出会いに感謝をし、これから半分は今後出会う方々にも恩返しをさせていただけたら本当にありがたいことだと思ふ。まだまだ未熟な自分なので支えていただ

くことばかりだが、子どもたちにそんな背中を見せられるよう過ごしていきたい。

私はここ数年「ご縁」という言葉が好きで、その言葉の意味に思いを馳せる。例えばあの時、娘が食卓で一生懸命に色を塗っていたその気持ち、今私の私のご縁を導いてくれ、大切な人たちと巡り合わせ

PTAふれあいニュース

vol.7

子どもたちの笑顔を追い求める
パパ軍団！

岐阜市立加納西小学校PTA

私たち加納西小学校PTAには、「親子委員」というお父さんを中心としたPTA委員会があります。

昨年は三回の主催イベントを行っており、七月に加西フェス、八月に学校キャンプ、二月に餅つき体験を行いました。

加西フェスでは、校舎を使用し、前年度の卒業生がお化け役として参加するお化け屋敷、体育館を使用したミニゲーム、涼を得るためのかき氷などを提供しています。

学校キャンプでは、グラウンドを使用し親子でのカレー作り、その後全員参加のキャンプファイヤー、最後に親子委員特製のナイアガラ花火を楽しむといった流れとなっております。

餅つき体験では、杵と臼を使用し自分たちでもち米をつき、ついたお餅を丸め、きな粉などをつけて親子で食べます。



西郷小学校では毎年、板屋川クリーン作戦を家庭・学校・地域ぐるみで行っています。

西郷地区にある板屋川は五月下旬から六月上旬にかけて多くのホタルが飛び交う大変きれいな川で、このホタルに誘われ、県外から見に来られる方もいるほど素晴らしい風景が広がります。

このホタルが飛び交う風景も、昔前はゴミが散乱する状況となっていた。そこでもう一度きれいな川を取り戻したい、子どもたちにホタルが飛び交う風景を見せてあげたいとの思いから地域の方が音頭を取り、小学生、中学生、地域の方々と協力して板屋川クリーン作戦が始まりました。

子どもたちは川岸四キロほどを一生懸命にゴミ拾います。空き缶やビニールなど色々なゴミが落ちていますが、拾い終え川岸がきれいになったことを確認すると嬉しそうな顔をしています。



板屋川クリーン作戦

「ホタルを縁として」

岐阜市立西郷小学校PTA

徐々に戻り、今では板屋川はたくさんの人々が集う憩いの場となっています。

私たちはこの板屋川クリーン作戦を通じて先達が遺された想いと素晴らしい風景を子ども達や未来に伝え残していきたいと思っています。また他のPTA活動においても最初に立ち上げられた想いを次の代、次の代につなげていかなければならないという想いをもって今後も活動に励んでいます。

親子で防災意識を高めよう！

岐阜市立鏡島小学校PTA

鏡島小学校では子どもたちの防災意識を高めるため、四年生で水防団活動の体験、五年生で親子防災体験、六年生で親子救命救急講習を行っております。四年生から六年生にかけて

連動して防災に関する活動を行うことで、より強く防災に対する意識を高めることができると考えています。

五年生の防災体験では、岐阜市消防本部、鏡島消防団、自治会、青少年育成市民会議、日本赤十字社などのご協力のもと、消火器訓練や煙体験、起震車による地震体験などを行いました。地震体験では、親子で一緒に起震車に乗り込み、震度七の揺れを体感し、その後「実際に揺れが起きた際にはどうするか」と親子で話し合う姿も見られました。

六年生の親子救命救急講習では、AEDの使い方や、心臓マッサージ体験など、一刻を争う救命救急の場面に遭遇したときにどうすればよいのかを身を持って学びました。救急救命士さんのお話を親子で真剣に聞き入る姿が見られました。

いつ何時起こるか分からない大規模災害に備え、もしもの時に親子や地域で助け合っていけるよう、これからも親子で防災学習を継続していきます。

思いやりの連鎖を生む
リサイクルバザー

岐阜市立陽南中学校PTA

陽南中学校では、PTA主催でリサイクルバザーを行っています。主にサイズが合わなくなったり、使わなくなった制服や体操服、ジャージ、体育館シューズ、通学カバンなどを現役生徒や卒業生の保護者の方々から事前に寄付していただき、役員が検品や値段付けを行った上で、当日は安価で販売します。

今年度は、中学校だけでなく校区内の二つの小学校にも案内を行い、来年度入学予定の小学生と保護者の方も多く来場されました。毎年大変盛況で今年も開始三十分ほどでほとんどの商品がなくなりました。

このリサイクルバザーは、親子で物を大切にする心やお互いに助け合う心を養ういい機会となり、卒業生から現役生徒、現役生徒の上級生から下級生、そして将来の陽南中学生へと思いやりの連鎖を生んでいます。

このような地域の中でのつながりを大切に活動を通じて、地域に愛される温かい学校づくりをPTAとしても続けていきたいと考えています。





蒼ざめた馬を見よ
五木寛之 著
文藝春秋

本巣市立真桑小学校PTA

林 もと子



この本は、私の読書を次のステージへと引き上げてくれた一冊だ。

舞台は旧ソ連。新聞記者の主人公鷹野は論説主幹に、老作家ミハイロフスキイが書いた体制を批判する小説『蒼ざめた馬を見よ』を秘密裏に入手せよと命ぜられた。鷹野は、ある女性の手助けで老作家本人に会い、首尾よく原稿を運び出す。そしてそれは出版され、全世界に波及しベストセラーとなる。そのことを受けソ連は窮地に立たされる。しかしこの一連の流れには驚くべき陰謀が隠されていた…。

それまで愛読書は児童文学ばかりだった私がこの本に出会ったのは、中学一年生の時。

その頃の私がソ連について知っていたことといえば、国土が広大である事。偉大な作家や作曲家、ピアニストを多く輩出している事。「社会主義国」で、国民の自由に制限があるらしいという社会の授業で習ったわずかな知識。要するによく知らないのだ。

知らない国に対する恐れと興味。そして、主人公が途中何度か抱いていた、掌の上で踊らされているのではないか、逆らうことのでき

ない罫へじわじわと落ちて行っているのではないかという不安に共感しつつ、夢中で読んだ。

読み終えた私は、この小説の中にもう一つの『蒼ざめた馬を見よ』が存在し、その物語も流れていく事。主人公の行動と文学の力が世界の波を作り、ソ連という大国を揺るがしていく事の興奮。体制下における「個」の存在の軽さ、無力さとそれに対するもどかしさ。作家の矜持について、両親に熱く語った。その時父が、「もと子もこんな小説を面白いと思えるようになったか。お父さんもペンの力は偉大だと思うが、ジャーナリズムによつて民衆心理が煽られるというのは、とても怖い事だと思う。こちらはその情報は正しいのか、という審美眼を持つことは大切だと思う。」と言ってくれた。そんな話を両親と出来て、なんだかちよつと大人に近づけたような気がして嬉しかった。

それからいろんな本を手にとってきたが、あの時の興奮をもう一度味わいたくて、でも全部読んでしまふのはもったいない気がして

たまにちよつとずつ読んだりしていたが、最近は遠ざかっていった。この原稿の執筆にあたり久々に全体を読んで感じたことは、あの頃とは少し違っていた。

私は、主人公鷹野の人物背景と、近い時代を過ごしてきた両親と、この小説について話し合い、いろんなことを感じる事ができた。作中人物たちが語っていた『ソヴェートの次の時代』に生まれた私の子ども達。日常の中に情報は溢れている。その子ども達はこの小説を読んで何を感じ取るのだろうか。



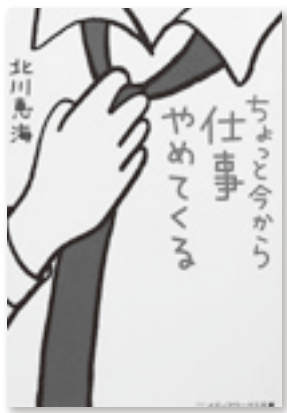
ちよつと今から
仕事やめてくる

北川恵海 著
メディアワークス文庫

株式会社KADOKAWA

瑞浪市立日吉小中学校PTA母親委員長

下篠 さおり



この本との出会いは、職場の先輩からの勧めがあったからです。ちよつと、今、上映されている話題の作品なので興味をもちました。

この作品で考えさせられたことは、「人生は誰のためにあるのか。」ということ。人は、人生の中でたくさんの人と出会い生きていく。生計をたてるために仕事をし、収入を得る。学生であれば、将来、自立し生きていくための勉

れは社会のため？自分のため？」

「お前の人生は、半分はお前のため、あとの半分はお前を大切に思ってくれている人のためにある。」と山本は青山に言っていました。さらに、「生まれた時から今

まで、自分一人で大きくなったわけではない。自分の気持ちばかり考えているけれど、一回でも残された者の気持ち、考えたことがあるのか？なんで、『助けられなかった』って一生後悔しながら生きている人間の気持ちを考えたことあるか？」と山本に言われ、青山は脳裏に優しく温かった両親の顔が浮かび、両親が手塩にかけて育ててくれたこの命を簡単に捨てようとした。そんな自分の愚かさを激しく責めた。そして、青山は苦しかった会社を辞めたのでした。

この世で生きていくためには、誰もが働かなくてはならない。やりがいのある仕事ばかりでなく理不尽なことだってたくさんある。その都度、みんなが仕事を辞めてしまつては、社会は成り立たない

かもしれない。しかし、社会のために誰かが犠牲になる必要なんて決してないはず。誰にでも幸せになるチャンスは巡ってくると、作者は言っています。

私は三人の男の子の母親であるとともに助産師という仕事をしていきます。不安で痛みに苦しみ、耐えて、耐えて、耐え抜いて出産を迎えます。そして産声が聞こえたその瞬間、母とその家族は安堵の表情へと変わり、幸せと希望に満ち溢れた温かい時間が流れるのです。

皆さん、時々、我が子の誕生の瞬間を思い出してみてください。自分もそんなふうに生まれたと感じ、命の尊さを考えてもらえたら幸いです。



三井住友海上は、
世界へ飛ぶ航空機は
つくっていませんが、
世界へ飛び立つ人や企業の
未来をつくっています。

加速し続ける企業のグローバル化。
海外で活躍する人や企業が増えています。
一方で、新しい挑戦にはリスクが伴います。
三井住友海上は42の国と地域に
展開するネットワークを活用し、
海外へ進出する人や企業をサポート。
世界中のお客さまの
安心と安全を守っています。

未来は、
希望と不安で、
できている。

明日をつよく。

三井住友海上



ルールは最低限がいい？

各務原市立中央小学校PTA会長 田中 博之



我が家には四年生と六年生の娘がいます。基本的に押さえつけるようなことはせず、のびのびと育ててくれているのですが、その子どもたちが普段から課している主なルールは、次の四つになります。

- 1 出かける時は必ず行先を伝える。誰も家にいない時は、ダイニングにあるホワイトボードに行先を書く。
- 2 夕方五時になったら必ず帰宅する。
- 3 晩御飯の前に宿題を終わらせる。
- 4 食事中はテレビを見ない。

二人とも、学校から帰るとほぼ毎日外へ遊びに行ってしまうので、安全面を意識して1と2のルールを設けています。高学年になると、休日であっても友達誘いに来たり遊ぶ約束をしていたりで外へ遊びに行ってしまうことが多くなり、家族と一緒に出かけること減ってきました。子どもにとっては友達と過ごす時間の方が大事だと思い、このルールを守る条件で自由にさせています。

成長に伴い、友達の輪の中にある自分の存在を客観的に見られるようになり、友達から刺激を受けたり悩んだりしながら人間力を養ってもらいたいと願っています。

3は平日のルールですが、遊んだ後はケジメをつけて晩御飯までに宿題を済ませることで、メリハリをつける癖を付けてもらいたいと考えています。が、集中して取り組んでいる時もあれば、遊びの延長でいつまでも姉妹でふざけていることもあり、日によって差が激しいのが現状です。姉妹の仲がいいのはありがたいことです。

また、我が家のダイニングにはテレビを置かないようにしており、食事中にテレビを見る癖をつけないようにしています。これは子どもたちが小さい頃に、テレビに気を取られてダラダラと食べて食事に時間がかかっていたため、その対策として設けたルールになります。もともとテレビを見ながら食事をしていた自身にとっては辛かったですが、今は良い習慣が身について良かったと感じております。皆さんのご家庭でも、いかがでしょうか？

話そう!語ろう! わが家の約束

田中家
の巻

72



我が家は、私たち夫婦と中学三年の娘、中学一年生の娘の四大家族です。子どもたちと話をし、決めた我が家の約束を紹介します。

1 ゲームは、宿題が終わってから。
ゲームに夢中になり、勉強が疎かになってしまっている子どもたちが心配になり、提案しました。徐々にですが、守れるようになってきました。

2 ゲーム機、タブレットは、夜八時半まで。

ネットについての講話、他の家庭の約束事を聴く機会があり、我が家も約束として設定しました。夜更かしをすることが無くなり、早起きできるようになりました。

ご褒美に購入したゲーム機が、生活リズムを崩す元になっていましたが、話し合い、約束を決めたことで、約束事以外の話をする会話が增え、子どもたちを知る良い環境になりました。



広瀬家
の巻

73



瑞穂市立穂積中学校PTA副会長 広瀬 千恵子

ゲーム機の約束

★子の思い

家族で楽しんだだけのこぼり

各務原市立稲羽西小学校

三年 宇野 瑚伯

ぼくのおばあさんの家の近くに、たけのこがとれる山があります。四月の休みの日に、お父さんと弟でたけのこほりに行きました。

お父さんが、「まわりの土をどけて、たけのこが出てきたら、下の部分をおもいっきりたいてほるんだよ。」と教えてくれました。

「なるほどな。」と思いながら、ぼくもお父さんが教えてくれたようにやってみました。土をどけるとはできたけど、力がたりなくて、たけのこはぬけませんでした。お父さんがやると、かるくぬけて、「さすがお父さんだな。」と思いました。

それから、ぼくと弟がたけのこを見つければ、お父さんがそれをぬくように、やくをきめました。たけのこは、全部で十二本とれて、みんなあせびつしよりでした。とれたてのたけのこを見て、「三人

でがんばったから、こんなにとれたんだ。」とうれしくなりました。

ばんごはんは、お母さんが作った、たけのこのフルコースでした。とれたてしんせんなたけのこで、さしみ、天ぷら、いためもの、たけのこごはんを食べました。ぼくは、たけのこの天ぷらが、さくさくで一番おいしかったです。家族みんながえがおになりました。たけのこのおかげで、家族のみんながやくわりをもてて、とてもうれしい一日になりました。

家族でがんばった歌舞伎

大野町立南小学校

五年 田中 碧乃

私は、今年の五月に「揖斐まつり」で歌舞伎をやることになりました。

五月三日は、揖斐川町の「はなもも地域交流センター」で公演をし、五月四日、五日の揖斐祭りでは、三輪神社で歌舞伎を披露しました。一日三公演やりました。たくさんの方が見に来てくれて、緊張したけど、本当にうれしかった

です。

揖斐子ども歌舞伎は、合計十四人でやります。女の子八人、男の子一人、黒子が三人。三味線と義太夫が一人ずつです。私は、「尾上」という人の役でした。5月に発表するために、十二月頃から、練習を何回かやりました。「尾上」役は、ほぼ全部の幕で出番があり、合計一時間くらい正座をしています。足がしびれるほど正座をしているので、すごく疲れます。でも、この役は、まだ、やったことのない役がらだったので、きちんと練習して成功させたいと思いました。

台詞や動きを覚えたりするのが、本当に難しく、師匠さんに何回も注意されました。練習を重ねるうちに、できなかったことができるようになりました。

でも、私だけががんばったのではありません。

おばあちゃんとおじいちゃん、いつも歌舞伎の送り迎えをしてくれました。学校が終わるとすぐに練習に行かなくてはいいけないし、公演前は、毎日練習があるので、とても忙しかったです。

美容師のお母さんは、いつも着物を着させてくれたり、髪を整えてくれたりするだけではなく、師匠さんに叱られて落ち込んでいる私をばげましてくれたり、時には、仕事の合間に、送り迎えをしてくれたりしました。

お父さんは、お母さんが仕事で忙しい土曜日や日曜日の歌舞伎の送り迎えをしてくれました。お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんが、私一人のためにみんなで協力してくれました。

私も、台詞を覚えたり、動きを練習するのが大変だったけど、家族も大変だったと思います。「歌舞伎」は、その公演にでる役者と公演を支える裏方、地域の方、そして、その家族みんなで作って、できあがるのだと思いました。だから、私を支えてくれる人に感謝をしなければならぬと思います。六年生になるまで、歌舞伎をやるチャンスがあるので、また挑戦したいです。

★親の願い

豊かな心を

美濃加茂市立三和小学校PTA

長谷川 美保

私は、今住んでいるこの町が好きです。ここに来て十六年。たくさんの方の優しさの中で安心して子育てをしています。初めての場所での生活に少し不安だった私たちを、地域の人たちと豊かな自然は、温かく受け入れてくれました。

長女を妊娠した時には、我が子、我が孫のように誕生をとて楽しんでみてくださったことを、今も本当に嬉しく思い出します。採れ

人と人がつながる故郷を大切にしたい

山県市立美山中学校

三年 荒深 遼斗

故郷美山にいと居心地がいい。それは、穏やかで、温かい地域のおかげだ。そのことに東京研修を通して気づきました。

僕の住んでいる地域では、年齢に関係なく明るく挨拶し、楽しく会話をすることができます。また、みんなで助け合っています。

人とのつながりを支えるものに清掃活動があります。多くの方の参加がありますが、高齢者の参加が目立ちます。この活動は、地域を美しくするのが目的ですが、同

時に自分たちの地域を守ろうという連帯感も生み出しています。また、高齢の方と話をしたり、声をかけ合ったりして、人のつながりを生み出し、深めることに役立っています。

このように人との関係ができていく地域では、暮らしそのものも穏やかだと思えます。しかし、地域によつては、いくつかの問題に直面していることも事実です。地域によつては、自治会に加入しない人が増え、町内会が立ちゆかなくなっているところがあるとも聞いています。

地域のつながりが薄れていくと、災害が起きたときはもちろんですが、お年寄りの生活を脅かすよう

なことがあっても気づきにくくなります。

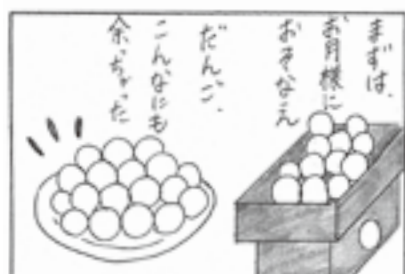
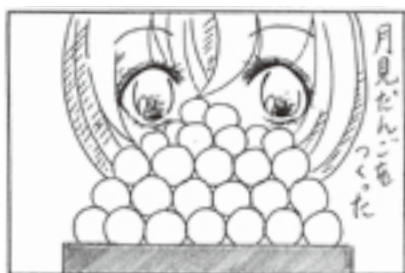
地域活動や祭りを嫌う人がいることは、事実です。しかし、参加することから生まれる楽しさを味わってもらうことが大事なのではないでしょうか。そうでないと地域のつながりが薄れ、味気ない地域になります。また、災害時の被害を拡大することになるかもしれません。

中学生がやるべきことは、進んで参加するだけでなく、活動や祭りなどの楽しさを、人に伝え、広めていくことではないでしょうか。

人とのつながりがある故郷を大事にし、何ができるか知恵を出し合うべきだと思います。

大垣桜高校 まんが研究部

お月見



逆さ言葉

けさたべたさけ

(今朝食べた鮭)

出題・田口 こはる子 (揖斐郡)

たての野菜を手を体でいたわってくださる方、無事を祈って何度も神社にお参りに行ってくださる方、「まだか、まだか」と赤ちゃんを心待ちにしてください。子どもも誕生、そして成長を共に喜びかわいがり、見守ってください。今も変わらず続いています。

分の目と肌で直接感じることが素晴らしいことだと。人とのふれあひも、画面の中ではなく直接向き合って表情や話し方、様子から相手の心をつかみ、感じ取り、受け答えができる子になれるように。

目の前に広がる自然も同じです。色移り変わる山々や鳥の声、虫の声、流れる水の音、夜空に輝く星やホタルの光。季節の香りや風と空気……。じつと眺めたり深呼吸をしたりすると心が落ち着きます。いつも癒されて、生きている喜びと命の大切さを実感しています。

私は、自分の感情を子どもに伝えるように心がけています。「新緑キラキラしているあの色大好き」「この甘い金木犀、懐かしい匂いなの」。時には、見たままに「虹見たよ」「あつ、ホタル」「夕焼けだ」と話すこともあります。声の抑揚や表情からだけでなく、子どもらしい純粋な心で興味をもって見つめ、感性を高めてほしいと願っています。豊かな心をもつことがとても価値のあることだと実感してくれることを。人とのふれあひから『やさしさや思いやり』を、自然の中から『生きていることの喜びや命の大切さ』を学び取ってくれることを。

私がこの町で感じている温かいものを子どもたちに伝え、心を育てていきたい。地域の人や自然に感謝しながら、子どもと一緒に生きていくことにあります。

が成長していく時間を大切にしたいと思います。

出遇いは生きる力

関ヶ原町立今須小中学校PTA

会長 三輪清文

親として子どもに期待することは、「学業に精励してほしい」、「健康で逞しく育ってほしい」、「協調性をもって豊かな人間関係を築いてほしい」等々、挙げればきりがなくいろいろな皆さんのことがあるかと思えます。わが子には、「出遇い」ということを大切にしてほしいと願っています。

今、子どもたちを取り巻く環境は、資本主義、経済至上主義の名のもとにより一層の物質的、経済的豊さを希求し、物と情報が増え、かえり、何事にも無関心になっていくのではないのでしょうか。人間関係も同様に、人とのつながりやこれまで地域社会の中で築き上げられた相互扶助の精神や連綿と受け継がれてきた伝統が蔑にされているのではないのでしょうか。

私たちは、無数のいのちのつながりの中で生まれ、育てられてきました。ところが、そのことを忘れてしまい、自我に固執し、さまざまなものを置き去りにして、「成長」「発展」のみを追い求めてきたのではないのでしょうか。その結果、満足を得るどころか、かえって自分が置き去りにされるような孤立感、焦燥感を深めているかのようです。

また、国の人口推移調査によると、日本の総人口は、現在の一億二千万人から四十数年後の二〇六〇年には九千万人を割り込み、三千万人も人口減となると予想されています。

しかしながら、子どもたちには、いかに社会状況が変化しようとも、自ら進んで学び、課題を見出し、課題を克服するため考え、主体的に行動していく。他者を思いやる。仲間と共に逞しく未来を切り拓き、豊かな人間関係を構築していくというような基礎的な生きる力をまずは養ってほしいと思います。

を生きていることに気づき、「自身自身の生き方」というものを見つけてくれればと思います。

ある方から「一生かけて出遇わなければならぬものは自分である。他者とおして自分というものが、どのような人間であるのかを気づかせていただく。それが自分に出遇うということではないだろうか。」という言葉を聞いたことがあります。

今、長い人生を歩みだしたばかりの子どもたちは、楽しいことやつらいことなど、様々なことを経験していく中で「親の背中を見て子どもは育つ」とよく言われます。まずは、私自身が出遇いを大切に、生きる力を養って

きたいこととあります。

教育の窓

地域とつながる挨拶の取組

北方町立北方西小学校

教頭 吉田圭子

六月下旬のある朝、職員室の電話が鳴りました。地域の方からで「朝、元気な声で挨拶してくれる子がいて、うれしかった。みんなに紹介してほしい。電話したんや。」とのこと。その日のお昼の放送で、早速紹介させていただきます。

本校の伝統の二つ「あごさつ」

があります。児童会の企画代表委員会が中心となって取組を考え、挨拶キャンペーンや「おはようの日（〇・八・四のつく日）」等を実施しています。

今年度、児童のこだわりは、教員の予想を大きく上回っていました。年度当初、四・五月のめあては、「相手に伝わる声であいさつをしよう」となっており、まず大きな声で挨拶することを徹底する予定でした。ところが、企画代表委員の児童は、五月の段階で、昨年度末の挨拶の姿を目指すことにしました。それは、「大きな声で、相手の目を見て、先がけて」という三つができていくというものです。児童は、昨年度の取組を通し

で、確かな手ごたえを感じていたのです。今年度は、昨年度培ってきた挨拶の姿をさらにレベルアップさせたいという強い願いをもち、それを実現するための取組を考え、実行したのです。

企画代表委員の児童は、キャンペーン期間や「おはようの日」でなくても、毎朝校門に立つて挨拶をしたり、手本となる挨拶をしている児童をお昼の放送で紹介したりして、全校みんなが「大きな声で、相手の目を見て、先がけて」挨拶ができるように、率先して取り組みました。企画代表委員のこだわりは、全校児童のこだわりへと広がっていききました。

このような児童の取組を、保護

競争



逆さ言葉

だれだ だれだ だれだ

(誰だ? 誰だ? 誰だ?)

出題・西川 結菜



Q1 次の歴史上の人物のうち、一番長生きをしたのは誰でしょう。

- ㊦ 徳川家康
- ㊦ 坂本龍馬
- ㊦ 西郷隆盛
- ㊦ 樋口一葉



9月号の

親子ではてな



Q2 秋といえば「スポーツの秋」です。スポーツを表す漢字とスポーツの名称の組み合わせが違ふのは次のうちどれでしょう。

- ①羽球 → バトミントン
- ②排球 → バレーボール
- ③送球 → ドッジボール
- ④籠球 → バスケットボール



者や地域の方も支えてくださいました。毎月月末には、保護者や地域の方が一緒に校門に立ち、登校してくる児童に挨拶をしてくださっています。その日はいつも以上に笑顔があふれ、元気な声で挨拶する姿が見られます。

保護者や地域の方にも支えられ、児童の主体的で地道な取組は、地域での挨拶の姿にも広がりを見せ始めました。それが、冒頭に紹介した、地域の方からの電話につながったのだと思います。

七月には、一学期まとめの挨拶キャンペーンを行いました。その中で、企画代表委員から、「夏休みには、地域の方にも挨拶できるようにしよう」という呼びかけがありました。挨拶の取組を通して、多くの方と関わり合いながら、児童は地域の一員としての自覚を深め、成長していくのだと改めて感じました。



本は一生の友たち

郡上市立白鳥中学校

校長 片桐 一男

六月下旬、NHKスペシャル「人工知能 天使か悪魔か」というテレビ番組が放送されました。人工知能（AI）の時代は、すぐそこまでやってきています。三月に発表された新しい学習指導要領も、AIのすさまじい進化を強く意識したものです。

さて、近未来の社会、AIは、「天使」になっているのか、それとも「悪魔」になってしまっているのか。現在の姿を見ていると、不安もあります。スマホ依存の姿です。スマホにさえ、使われてしまっていないでしょうか。

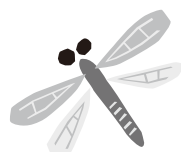
でも、私たちには、AIを「天使」にする方法があります。「読書」です。自分で本を選び、自分の頭と心で苦勞しながら読み、自分でイメージを描き、納得したり新たな課題を考え出したり、感動したり反発したりする。まさに「人間の学習」です。こういう力が身に付ければ、AIを使いこなすことができます。

きるはず。AIを「天使」として生かす力が身に付けば、夢のような未来がやってくるでしょう。たとえば、進化したAIを組み入れたスマホが一つあれば、知能指数が数千というけた違いの能力を持つ自分専用の秘書が何人もいるのと同じです。何でも簡単にできてしまいます。

だから、「読書」です。本校にもすてきな図書館があります。学校司書の方が話題の本の展示や、本の利用の仕方の揭示、新聞記事の紹介など、いろいろと工夫してくれまます。また、図書館主任の先生は、授業で生まれたモデルとなる生徒の作品を集め、図書館を「学習情報センター」として利用できるように計画してくれています。期待しています。さらに、国語科主任の先生は、質の高い本や生徒の作品、心を癒すインテリアなどをアレンジした二十一世紀型の新しい教室作りにチャレンジしてくれまます、たぶん。

そして、私の夢は、学校のいたるところに「本と友たちコーナー」を作ることです。白鳥中は、郡上

市が誇る木造のすてきな校舎です。写真のような所を読書スペースにできたら、何て素晴らしいことでしょう。「夢」を描けるのが人間の強み。そして、その夢をかなえてくれるのがAI。「読書」とAIがそろえば、近未来は天国です。



応募方法

応募者は、はがきで、7月末までに下記の宛先へお送りください。
(1人1枚・当日消印有効)
※クイズの答えは1問だけでもOKです。

宛先 〒500-8824
岐阜市北八ツ寺町7
岐阜県校長会館内
岐阜県PTA事務局
「わが子のあゆみ編集部」

なお、応募はがきには「わが子のあゆみ」への感想・意見やなぞなぞの問題と答え、逆さ言葉などを記入してください。

- 9月号クイズの答え
- 郵便番号・住所
学校・学年・氏名
保護者名
- 『わが子のあゆみ』への感想・意見
- 「なぞなぞ」の問題と答え
- 逆さ言葉

7月号クイズ答え

Q1 ㊦ 友

Q2 長野県

(新潟・富山・岐阜・愛知・静岡・山梨・埼玉・群馬)

7月号のクイズ当選者

伊藤 慎介 (山梨市) 宮田 莉世 (揖斐郡)
堀 希実 (羽島郡) 五十川英紀 (揖斐郡)
水谷 知花 (大垣市) 足立 明優 (関 市)
池田 琴葉 (大垣市) 鈴木 麻友 (郡上市)
西川 結菜 (不破郡) 三宅 晴 (美濃加茂市)
高野 遥 (安八郡) 長瀬 良磨 (美濃加茂市)
田口こはる子 (揖斐郡)

お試しクッキング

甘長ピーマンの炒め煮

岐阜県学校栄養士会

甘長ピーマンは、京野菜として親しまれている「伏見甘長とうがらし」に由来しています。とうがらしの仲間ですが、辛くないため「甘長ピーマン」と名づけられています。岐阜県では、40年ほど前から海津市で栽培が始まりました。今では栽培する地域が増え、海津市の他、安八町、輪之内町などの西濃地域を中心に栽培されています。形は、普通のピーマンと比べると細長く、シシトウを大きくしたような形をしており、苦味や青臭さが少なく甘みがあります。実の中にはピーマン同様に種が入っていますが、小さいため取り除かずそのまま調理することができます。また、今回は炒め煮を紹介しましたが、焼いたり天ぷらにしてもおいしくいただけます。ちりめんじゃこと一緒に煮る当座煮が一般的ですが、豚肉を加えることでボリュームとコクをもたせたため、ピーマンの苦味や青臭さが苦手な子どもが食べやすい料理です。

作り方

- ① 豚肉は2cm幅に切る。にんじんは短冊切り、甘長ピーマンは、ななめ1/2～1/3に切る。
- ② 鍋またはフライパンに油を敷き、豚肉を炒める。豚肉に火が通ったら、にんじんを加えて炒める。
- ③ にんじんが少しやわらかくなったら、甘長ピーマンを加え、軽く炒める。
- ④ 合わせておいたAの調味料を加えて火を弱め、にんじんと甘長ピーマンがやわらかくなるまで煮る。
- ⑤ 器に盛り付け、白煎りごまを散らす。

材料 4人分

豚もも肉(うす切り)..... 40g
 サラダ油..... 小さじ1/2
 にんじん..... 40g
 甘長ピーマン..... 7本(80g)
 砂糖..... 小さじ2
 みりん..... 小さじ2/3
 しょうゆ..... 大さじ1/2強
 酒..... 小さじ1
 白煎りごま..... 小さじ1と1/3

●栄養価(1人あたり)

エネルギー..... 47kcal
 たんぱく質..... 2.8g
 脂質..... 2.5g
 カルシウム..... 17mg
 鉄..... 0.3mg
 亜鉛..... 0.4mg
 ビタミンA..... 67μgRE
 ビタミンB₁..... 0.10mg
 ビタミンB₂..... 0.03mg
 ビタミンC..... 11mg
 食物繊維..... 1.0g
 塩分相当量..... 0.3g

■作品を募集しています。イラスト・なぞなぞ・逆さ言葉などの作品を募集しています。イラスト・絵手紙はハガキに描いてお送りください。ペンネームを使う場合にも、郵便番号、住所・学年と氏名を忘れずに。写真・書写は郵送願います。なぞなぞ・逆さ言葉は「親子ではてな？」の解答とともに送り下さい。

宛先はいずれも

〒500-8824 岐阜市北八ツ寺町7
 岐阜県校長会館内「岐阜県PTA連合会・作品係」まで。

採用の分にはお礼をさしあげます。

■本誌の購読について

本誌は年間5回発行(7・9・11・1・3月)されます。年度始め(4～5月)と7月の2回、各学校PTAを通じて予約購読募集を行います(1冊200円、5冊1,000円)が、年度途中でもお求めいただけます。学校または県PTA事務局へお問合せください。

■7月号を読んで

一番印象に残ったのは、特集の「先生!ありがとう!」です。読んでいて「そうだ、そうだ」と思うことばかりでした。私自身、義務教育の期間中の数年間、人間関係で悩んだこともありましたが、その時、どの先生も私の話をよく聞いてくださり、状況が良くなるようアドバイスや配慮をしてくださいました。よく話を聞いてくださるということで、自分はちゃんと認められていると思えました。ありがとうございました。 Aさん

「先生!ありがとう!」読んでいて感心させられました。うちの子たちもすばらしい先生、人生を見つめることができる先生に会えました。先生が子どもに与える影響って、すごいですね。匿名

特集「先生!ありがとう!」我が子のように、親身になって相談してくださる先生がみえ、出会えるなんてすばらしいことだと思います。すし、うらやましくなりました。 Hさん

「多様性尊重の教育」シリーズは「個性」や「共生」という言葉をよく耳にする現代において、とても共感でき、心の支えになりました。今後のシリーズも楽しみにしています。 Tさん

毎回楽しみに読んでいます。「多様性に向き合い、共生社会を実現する」が一番印象に残る内容でした。みな違って、みんないとお互いにつながると、考え方が違うと対立感を出してしまう。そこで、もう一歩歩みより、視点を変えることで和やかな雰囲気になり、お互いにつながると、感じました。今、下の子に行事についてクラス役員と他の親さんの考え方にズレがあり、対立しているように見えました。でも、互いが子どものために行事を成功させたい気持ちは同じです。お互いの歩みよりだなと感じていた時に読んだので、心に残りました。 Sさん

県内の他校の様子や文や写真で知ることが出来て、毎号楽しく読ませていただいています。子どもたちも楽しめるまんがや逆さ言葉、クイズ等も載っていて、親子で楽しめるからいいですね。 Tさん

イラストのコーナーが楽しみです。私も将来、絵を学んで仕事に生かせたらと思っています。 Iさん

私たちの学校もけっこう色々やっていますが、他の学校もイベント・行事に一生懸命、親・子ども・先生がやっていることがよくわかりました。大体同じ様なことをやっているの、違う他の行事を考えるのもいいと思います。 Iさん

各学校の具体的な取組みがよく分かり、良かったです。それぞれのPTAの方が、頑張っているなと感じました。 Iさん

■7月27日に、庭のプランターのオクラの葉の上に、変わった形の生き物を見つけました。調べたら、名前は「キセルガイ」。カタツムリと同じ仲間ということが分かりました。体長1cmほどでした。



■岐阜県「ふるさと散歩」第二集



2年前に発行した『岐阜県 ふるさと散歩』の第一集は、県内の小中学校を通して、多くの皆さんにお届けしました。その本を携えて紹介したところを訪れ、夏休みの訪問記としてまとめた小学生がいました。家族旅行の訪問先として参考にされた家庭もあったようです。また、書店を通して購入いただいた一般の方も相当数あり、ふるさと岐阜県の良さを見つけたり、再認識したりする機会になったという声を寄せていただきました。今回の第二集は、第一集で収録されなかった地域や素材を対象とし、岐阜県が誇る自然や文化にこれまで以上に興味をもっていただけるよう、写真や地図などを精選して構成しました。ぜひ、この本を手手に現地に出かけてください。一つでも多くの発見や感動が生まれることを心から願っています。

2017年 岐阜県小中学校長会

(註 「岐阜県「ふるさと散歩」第二集 あとがき」より転載致しました。編集部)

岐阜県PTA連合会ホームページのQRコードです。「わが子のあゆみ」のバックナンバーが閲覧できます。



■なぞなぞの答え

- ①まさか
- ②カクレクマノミ

■平成29年11月号のお知らせ(予告)

特集＝育児とPTAで人生を豊かに／後編／表紙＝陶小／学校のたからもの＝藤原第二小・瀬尻小・新宮小・日新中／わが家の宝物＝付知南小／家庭教育応援団／PTAのABC③／保健室ノート＝美山小／私の先生＝北方小／半生記＝江名子小／一冊の本＝合原小・上麻生中／わが家の約束＝大桑小・萩原南中／ボランティアニュース＝帷子小・今渡南小・東可児中・広陵中／子の思い＝中島小・上之保小・神測中／親の願い＝菅田小・共和中／教育の窓＝宮川小・岐阜清流中／お試しクッキング／ふるさとの伝承＝黒川小／きらりキッズ!＝美濃小／我がが部活＝岐阜西中／私たちのPTA＝西江小

わが子のあゆみ

平成29年9月1日 発行
 初秋号 第69巻2号
 通巻第449号

頒価 200円(年間1,000円)

*お問合せ申込みは、各学校または右記事務局へ。

編集／岐阜県PTA連合会広報委員会「わが子のあゆみ」編集部
 発行／岐阜県PTA連合会
 〒500-8824 岐阜市北八ツ寺町7 岐阜県校長会館内
 電話／058-262-3257 FAX／058-262-3259
 ホームページ／http://www.g-pta.com
 Eメール／info@g-pta.com
 印刷／サンメッセ株式会社

海津市立大江小学校 ふるさとの伝承

宝暦のお手伝い普請に学ぶ

私たちが住む海津市は、木曾・長良・揖斐の木曾三川の恵みを受けて、岐阜県有数の農業が盛んな地域であるなど、人々が豊かな生活を送ることができています。しかし、そこに至るまでには先人たちのさまざまな苦勞がありました。本校では、その歴史について学んでいます。その歴史とは、宝暦のお手伝い普請についてです。

【宝暦のお手伝い普請とは】

今から二六〇年ほど前(江戸時代 宝暦)、三つの川にはさまれ、海抜が低いこの地域は、梅雨の時期になると、すぐに川が氾濫して、堤が決壊し、そのたびに、家や田畑が流されたり、人の命が奪われたりする、大きな被害を受けていました。

そこで、この地域に住む人々は、当時の日本の政治を仕切っていた江戸幕府に工事をお願いしました。江戸幕府は、薩摩藩にその治水工事を命令しました。

幕府が、岐阜から遠くはなれた鹿児島県にある薩摩藩に命令を出したのには理由があります。当時、大きな力をもっている薩摩藩に、攻め込まれるのがこわかった幕府は、薩摩藩に大変な工事をさせることで、たくさんのお金や労働力を使わせ、藩の力を弱くし、反乱を起こさないようにしようとしたのです。

薩摩藩では、この命令を受けるかどうかの話し合いが行われました。断るべきだといった意見がある中、平田鞆負(ひらた たぬきえ)は、「われわれが戦う相手は幕府ではない。美濃の人々をおそう木曾三川の水害である。美濃も薩摩も同じ日本だ。美濃の人々を助けよう。この工事を成功させれば、薩摩のほこりを末永く、後世に残すことができる。」と言い、薩摩藩の心をついにまとめ難工事を引き受けました。

一七五四年二月、遠く薩摩から平田鞆負を総奉行とする千人余りの武士たちが美濃までやってきて、工事が始められました。数々の難工事をやり切り、着工から二年三月後の一七五五年五月、すべての工事を終えました。

しかし、幕府のねらい通り、薩摩藩は多くの人の命とお金を失ってしまいました。平田鞆負は、薩摩藩に無事工事が完成したことを伝え、藩士たちをふるさとへ送り出した後、大巻の役館で自らの命をもって責任をとり、自害しました。

治水神社で行われる春の大祭(四月二十五日)には、全校児童が参加します。

春の大祭に参加する前に、毎年、地域の方から治水の紙芝居『せんぼんまつばら』を見せていただいたり、『薩摩義士踊り』を教えていただいたりします。紙芝居の内容は、この地域の人々が、川の氾濫によって大きな被害を受けてきたこと、その被害をなくすために行われた薩摩義士の方による治水工事についてです。また、低学年、中学年、高学年の三つに分かれて、地域のボランティアの方と一緒に「みこし」をつくります。

春の大祭当日は、朝、PTAの役員さんと地域のボランティアの方に「みこし」を運んでいただき、低学年、中学年、高学年でわかれ、全校のみんなで「みこし」をかつぎます。その後、地元の方々と輪をつくり、薩摩義士踊りをします。

特に四年生では、総合的な学習の時間と社会科「きょう土のはつてんにつくす」の時間を使って、地域の方から「宝暦のお手伝い普請」についてお話を聞き、学んでいます。その後、海津市歴史民俗資料館を見学して、輪中と治水の歴史について学習を深めます。治水神社春の大祭に鹿児島から参加された方に薩摩義士についてのインタビューを行ったこともあります。

学習して感じたことや考えたことは、年度末の学習交流会で発表します。

水害で苦しむ私たちのために、力を合わせて工事をやり切った薩摩義士の方たちの姿から、人と人との絆のすばらしさを学んでほしいと願っています。また、「われわれが戦う相手は幕府ではない。美濃の人々をおそう木曾三川の水害である。美濃も薩摩も同じ日本だ。美濃の人々を助けよう。」と同じ国の仲間のつらい思いを感じ、私たちを救ってくださったことに対して感謝の気持ちを持ち、薩摩義士の方の熱い思いを引き継いで、海津の町を大切にして生活してほしいと願っています。



▲鹿児島の方にインタビューする児童



▲版画「宝暦治水工事の様子」
この版画は、(財)鹿児島県英財団発行『薩摩義士』の挿絵から、大江小学校の児童によって復元したものです。(原画) 神宮寺 徹八氏

治水神社とは

宝暦治水工事の責任者、薩摩藩家老平田鞆負を祭神とする神社。工事の犠牲となられた薩摩義士の位牌が祀られている。毎年春(4月25日)と秋(10月25日)には義士の遺徳を偲び、慰霊祭が行われており、鹿児島からも多数の方々がお越しになる。



平田鞆負の話
を聞く児童▶



◀輪中のお話を聞く児童



▲治水神社 春の大祭でみこしをかつぐ児童



▲地域の方とみこしづくりをする児童



▲「薩摩義士踊り」を練習する児童



▲治水神社 春の大祭で町衆と一緒に踊る児童



▲紙芝居「せんぼんまつばら」を聞く児童

きらり！キッズ！

羽島市立桑原学園は、桑原小学校と桑原中学校が一つとなる義務教育学校として、この四月に開校しました。全校児童生徒一六六名、前期課程は、一〇六名で、一・二名です。桑原小学校の伝統を大切にしつつ、中学校の良さを取り入れたり、力を合わせて新たな伝統を作っていくようにしたいと思っています。

一〇九名生が力を合わせる

桑原学園の一番の特徴は、いわゆる中学生と小学生との交流が自然に行えることです。全校で力を合わせる運動会だけではなく、花のプレゼントや勉強のアドバイスなど、多くのことを学ぶ機会となっています。

前期課程の伝統を守る

桑原小学校の三つの伝統。その中に「あいさつ」があります。昨年度、登校中にどこからでも大きなあいさつの声が聞こえる学校になりました。今年度、桑原学園となっても、このあいさつを大切にしたいと願い、活動してきました。

一つ目は、六年生が主体となった校門前でのあいさつ活動です。六年生との話し合いの中で、大きな声で笑顔で迎えよう。目線を合わせるため



休み時間などに低学年を可愛がる中学生が見られます。

運動会の応援練習を一緒に行いました。後期課程の力強さに感動しました。



花を育てている9年生から、花を使ったしおりのプレゼントをもらいました。



8年生から、夏休み中の宿題である、読書感想文や一研究の取り組み方を教えてもらいました。

に腰をかがめながらあいさつしよう。という目標を立てて取り組んできました。今では、他学年の子が、一緒に並んでくれたり、校内では、五年生の子が「あいさつ隊」として、各学級にあいさつに行ってくれたり、活動が広がっています。

二つ目は、わたしたち計画委員が、毎日外に立ってあいさつするだけではなく、良いあいさつの姿を放送で紹介したり、児童玄関に貼り出したりすることで、全校に広げようとして取り組んできました。

しかし、同じ場所であいさつしなかったり、決まった相手にしかあいさつしなかったりする姿が見られるようになりました。そこで、私たちは、毎日同じ場所であいさつの取り組みをするのではなく、場所を変えてあいさつ活動をするようにしました。

学園となったことを生かして、後期課程の先輩方と、どこからでも、誰にでもあいさつができるようにしたいと考えています。岐阜県ナンバーワンのあいさつを目指して。

(六年生 計画委員)

子どもたちの感想

このあいさつボランティアをやるようになって、進んであいさつができるようになったり、あいさつをするとうれしい気持ちになったりすることに気づきました。このボランティアをこれからも続けていって学校をよりよくしていきたいと思っています。(5年生)

ちょっと緊張しながらも、がんばって続けていくうちに、他の学年の子も「いっしょに行かせて。」と言ってくれるようになりました。ぼくも、「いっしょに行こう。」とさそって行くようになりました。今では、ぼくは「やっぱりあいさつをすると、友達の輪が広がっていくんだな。」思うことができました。だから、僕は、毎日続けることができます。いつか、あいさつで笑顔いっぱいの桑原学園にしたいという思いで、あいさつボランティアを続けています。(5年生)



あいさつ運動は、様々な場所で取り組み、どこでもあいさつできる桑原学園を目指しています。



美術部



私たち美術部は、個々の作品制作に取り組んでいます。また、個人の作品づくりだけでなく、生徒会から依頼を受けたポスターや体育大会のスローガンなどを全員で仕上げ、学校の活動にも貢献しています。

音楽部



私たち音楽部は、23人で、発声などの基本を大切にして練習しています。過去、コンクール本選出場や銀賞を勝ち取ってきました。今までの集大成としてふさわしい合唱が出来るように、練習から100パーセントの力を出し取り組んでいます。

バレーボール部



バレーボール部は「市大会入賞」「地区大会出場」を目指して日々練習に励んでいます。また、「活気があり、礼儀正しい」というチームも目標にしています。この目標を達成するために、普段から大きな声であいさつをし、本番をイメージした練習をしています。

剣道部



剣道部は9名で活動しています。少ない人数ですが、先生方からのご指導のもと日々積み重ねを大切にして全員が真剣に稽古に取り組んでいます。稽古中はお互いに声をかけ励まし合うことで、誰一人として欠けることがないようにしています。



トレーニング部



トレーニング部は地域のクラブチームなどに入っている人が集まった部活です。競技としてはサッカー、野球、水球、バレーボール、バドミントンなどです。部活動では主に走ったり、それぞれが行っているスポーツの練習をしたりしています。個々により結果が残せるように頑張っています。

女子バスケットボール部



女子バスケットボール部は地区大会出場をめざして練習に励んでいます。プレーだけでなく、練習中に声を掛け合ったり、互いに励まし合ったりしてチームワークで取り組んでいます。

男子バスケットボール部



男子バスケットボール部では21人で練習しています。目標は地区大会出場です。そのために、全員で一つひとつの練習を大切に、常に本番の試合を意識して練習しています。チームとして一丸となって取り組んでいます。

体操部



私たち体操部は、日々コツコツと努力してきました。いろいろな技に挑戦し出来るようになろうと一人ひとりが挑戦を続けました。そして、仲間同士でアドバイスし合い、少しでも得点を上げようと努力してきました。全員が笑顔で終わるように頑張りたいです。

サッカー部



サッカー部は部員18名で、毎日一生懸命練習をしています。内容はステップやパス、シュート練習やミニゲームです。朝練ではグラウンドの内周を2キロ走ります。3年生はいませんが、今年の中体連では地区の上位まで上げられるように頑張りたいです。

ハンドボール部



ハンドボール部の目標、男子は「全国制覇」女子は「全国大会出場」です。ただ、この目標は甘くなく、今まで負けてばかりでした。しかし絶対に諦めませんでした。それは大きな目標を達成するためです。いつか部員全員で夢に見た目標を必ず達成します。

女子ソフトテニス部



女子ソフトテニス部では、地区大会出場に向けて日々努力しています。特に練習では声出しを大切にしています。声を出すことで仲間や自分の支えにもなります。これらはテニスだけでなく、これからの生活にもつながるので、続けていきたいです。

男子ソフトテニス部



男子ソフトテニス部では、走りこみで基本となる体力をつけることを大切にしています。また、ミーティングでは練習の細かなところも話し合い確認します。例えば朝のあいさつでは、「みんなが大きい声でする」ことを徹底しています。

野球部



僕たち野球部のスローガンは「常勝」です。そのスローガンをもとに試合では勝つために最後まであきらめずにプレーしています。また、野球ができる環境へ感謝の気持ちを忘れないようにしています。

卓球部女子



卓球部女子は、団体で地区大会入賞、個人は県大会出場などを目標として練習してきました。勝つだけでなく、あいさつなどもしっかりとできるように、日々取り組んできています。本番を意識して練習から全力で行うようにしています。

卓球部男子



卓球部男子は、各自の目標に向かい集大成ともなる中体連での好成績を目指して、日々練習に励んでいます。「勝利」にこだわることは勿論ですが、試合に至るまでの努力の積み重ねや、仲間と共に頑張ってきた気持ちを大切にして、自分の持っている力を十分に発揮したいと思います。

私たちのPTA

恵那市立明智小学校PTA

平成二十九年年度PTAのめあて

育てよう！
たくましく生きる
明智っ子！

地域・学校紹介

「日本大正村」をテーマに町おこしを展開してきた明智町は、大正ロマンの漂う町です。昨年、観光の中心となる「大正村浪漫亭」がリニューアルオープンし、町を挙げて観光事業に力を入れています。「日本大正村」の歴史的・文化的な地域環境を活かして、地域の方々が児童の学習活動や体験活動等に深く関わり、児童の学習を支えてくださっています。児童も地域の行事に積極的に参加しています。

明智小学校は、平成二十六年度に吉田小学校と統合しました。学校の教育目標は、「めあてをもち 仲間と共に やりぬく子」です。特に「あ・け・ち」にちなんだ「あさからげんき いきいきあいさつ」「けじめをつけて どうどうじゅぎょう」「ちからをあわせ もくもくそうじ」の三つの自慢づくりに、全校二三百名の児童が取り組んでいます。



明智町の顔「大正村浪漫亭」

PTA紹介

明智小学校のPTA組織は、本部役員会を中心に、三つの専門委員会と各学年委員会、地区役員会とに分かれています。本部役員には、統合して二年間は、各地区の声をPTA活動に反映させようと、特別会則によつて、明智地区、吉田地区からそれぞれ一定の割合で役員を選出していました。PTA活動を中心に地域が一体化してきた昨年度から特別会則はなくなりました。

明智小学校PTAは、新生明智小学校の原動力として、地域と学校の実態に合わせ、さまざまな活動に工夫して取り組んでいます。



平成29年度本部役員（教員は除く）



PTA機関誌「ききょう」の表紙



5月3日に開かれた「光秀祭り」。旗を持っている武士は、明智小学校の6年生児童。明智光秀に扮しているのは平成29年度明智小学校PTA会長

昨年の夏の「奉仕作業」の様子

○本部役員会

十九名から成ります。活動計画や予算案の審議を行う四月のPTA総会の後は、定期の本部役員会を開き、活動計画を基にPTA活動を推進します。また、PTA行事の折には、分担して、陰に陽向に、多くの仕事をしています。

○広報委員会

PTA機関誌「ききょう」を年四回発行しています。七月に発行された第二二二号では、PTAが一学期に行つた「親子学習会」や「おにぎりの日」の取組の成果が詳しく紹介されています。

○環境委員会

明智中学校PTAと合同で夏に奉仕作業と年三回の資源回収を行います。小学校の奉仕作業は、秋の運動会に備え、運動場の整備を行います。資源回収は、広い明智町のリサイクル推進とともに資源回収による恵那市からの補助金を合わせた収益金が、PTA活動の大切な活動費の一部になります。

○母親委員会

「おにぎりの日」「親子学習会」「給食試食会」「母親・父親による読み聞かせ」「よいとこ見つけ」など、創意工夫に富んださまざまな活動を行います。今年度は、家庭教育学級「話そう！語ろう！わが家の約束」運動

の二環として「家族でよろまい 学習慣」に挑戦します。

○学年委員会

学年懇談会の運営の他、学年ごとに親子行事を行います。対決もある親子スポーツ、野外研修に役立つ豚汁づくりなど、活動が大いに盛り上がります。

○地区役員会

資源回収の地区担当、通学路の危険箇所点検等、地域に密着した活動を行います。

親子学習会

毎年、各学年固定のテーマで親子学習会を行います。発達段階にに応じて、親子のふれあい、命の教育、歯の健康、食と生活、情報モラル、救急救命と、今日のかつ重要な課題について、同学年の親子が一緒に学び、共に成長する場となっています。講師は、本部役員会で選定しています。

「命の教育」の学習をした二年生児童の感想

「みんなのお母さんやお父さんも一緒に命の学習をしました。お母さんのおなかの中にいるとき、お米つぶくらいの大きさだったと知りまして、小さな時から守ってもらって、自分の命は大切だと思いました。」

おにぎりの日

子どもたちが自身で献立を考え、材料を調達し、そして仲間と食べ、片付ける。生きることに深く関わって「食」について主体的な姿を育てたい。そんな願いを込めて、昨年度に引き続き、年二回、実施しています。四月のPTA総会では、昨年度の取組が子どもたちの写真入りのパネルで紹介されました。

「おにぎりの日」に取り組んだ一年生児童の感想

「たまご焼き、ウインナー、ピーマンをお母さんと一緒に料理しました。とてもうまくできました。お昼に食べるのがとても楽しかったです。みんなで食べたお弁当がとてもおいしかったです。また、一緒にお弁当を作って家族でおかけしたいです。」

4年生親子学習会で「食と生活」を学ぶ児童



4年生親子学習会「食と生活」の様子



5年生親子行事の「豚汁づくり」



「おにぎりの日」の1年生の様子

PTA総会で掲示された昨年度の「おにぎりの日」の掲示

